テスト対策

でるモン テスト対策本

国語 中1 光村

解答解説

1 野原はうたう

教科書 P.14～15　光村 国語中1

言葉に出会うために

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

野原はうたう　工藤直子

Ⅰ あしたこそ　A　はるか
①ひかりを　おでこに
くっつけて
はなひらく　ひを
ゆめにみて
A　わたげが
まいあがります
②とんでいこう　どこまでも
あした
たくさんの「こんにちは」に
であうために

Ⅱ おれは　B　B　りゅうじ
おう　なつだぜ
おれは　げんきだぜ
あまり　ちかよるな
おれの　こころも　かまも
どきどきするほど
ひかってるぜ
おう　あついぜ
おれは　がんばるぜ
もえる　ひをあびて
かまを　ふりかざす　すがた
③わくわくするほど
きまってるぜ

（教科書P.14～15／工藤直子「野原はうたう」）

(1) Ⅰの詩で使われている表現技法を次の中から二つ選び、記号で答えなさい。
ア 擬人法　イ 隠喩　ウ 反復　エ 対句

(2) A に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。
ア さくら　イ たんぽぽ　ウ すみれ　エ つくし

(3) よくでる ――線①「ひかりを　おでこに／くっつけて」から読み取れる様子として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。
ア わたげが風にふかれて激しくゆれている様子。
イ わたげがびっしりとひしめいている様子。
ウ わたげが太陽の光を浴びてかがやいている様子。

(4) ――線②「とんでいこう……であうために」にこめられている気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。
ア これからたくさんの人と出会うのを期待する気持ち。
イ これから知らない世界に行くことを不安に思う気持ち。
ウ これからはひとりでも明るく生きていこうと決意する気持ち。

(5) Ⅱの詩で使われている表現技法を次の中から二つ選び、記号で答えなさい。
ア 擬人法　イ 直喩　ウ 省略　エ 対句

(6) B に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。
ア ばった　イ かまきり　ウ くわがた　エ かぶとむし

(7) ――線③「きまってるぜ」とあるが、何がきまっているのか。詩の中から一行で書き抜きなさい。

(8) よくでる Ⅱの詩では、「おれ」のどのような姿がえがかれているか。それを説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、詩の中から指定の字数で書き抜きなさい。
（①二字）のあつさの中、（②三字）にはりきっている姿。

1 (3)(4)各15点、他各10点　(1)(5)各順不同・完答

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8) ①	(8) ②
ア イ	イ	ウ	ア	ア エ	イ	かまを　ふりかざす すがた	な つ	げ ん き

☆(1) 「ひかりを　おでこに／くっつけて」は隠喩。
☆(2) 「わたげ」とあることから考える。
☆(3) 「ひかり」とは、日の光のことである。
☆(4) 「『こんにちは』に／であう」とは、あいさつをかわす相手と出会うということである。
☆(5) 一連と二連の言葉の数や意味、形が対応しているので、対句である。
☆(6) 「かま」から考える。
☆(8) 「おう　なつだぜ」「おう　あついぜ」「おれは　げんきだぜ」「おれは　がんばるぜ」などから、暑い夏、かまを光らせて元気にがんばっている姿がえがかれていることがわかる。

2 シンシュン

教科書 P.22～29　光村 国語中1

学びをひらく

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある日、クラスメイトが僕に、
「シンタとけんかしたの。」
そうきいてきた。僕はそのときこう思った。ああ、けんかできたら楽だろうな。何もしていないのに、こんなふうに気まずくなるなんて。僕は自分が［　］。そうだ、どうせなら、ちゃんとけんかしよう。勇気がいることだったけど、こうやって気まずいよりはましだ。僕はシンタに話しかけた。
「シンタ。」
シンタは僕を見た。ちょっと怖がっているみたいに見えた。
「僕、あの小説が好きなんだ。」
「え？」
「あの、国語の小説。」
覚えていないかもしれない。急にこんなことを言うのは変だ。でも、そこから話をするしかなかった。僕は必死だった。だから、
「覚えているよ。」
シンタがそう言ってくれたときは驚いた。それから、こう続けたときも。
「僕がキラいって言ったとき、シュンタが傷ついたのもわかった。」
（中略）
シンタと僕が久しぶりに話をしているのを、クラスメイトたちが見ているのがわかった。
でも、僕は気にしなかった。
「僕、シンタと違うところを発見するのが怖かったんだ。」
シンタも、気にしていなかった。
「僕も！」
思ったより、大きな声が出たのだろう。シンタは照れくさそうに笑った。

（教科書P.25～26／西加奈子「シンシュン」）

(1) ――線ⓐ～ⓓの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ――線①「こう」が指す内容を文章中から一文で書き抜きなさい。

(3) ［　］に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 冷たかった　イ かわいそうだった
ウ ほこらしかった　エ 情けなかった

(4) ――線②「そうだ……けんかしよう」と思ったのはなぜか。その理由を文章中の言葉を使って説明しなさい。

(5) ――線③「シンタに話しかけた」ときの「僕」の様子を表した言葉を、これよりあとの文章中から二字で書き抜きなさい。

(6) よくでる ――線④「それから、こう続けたときも」のあとにはどのような言葉が省略されているか。文章中から書き抜きなさい。

(7) ――線⑤「シンタは照れくさそうに笑った」とあるが、その理由を「僕」はどう考えたか。「～から。」に続く形で、文章中から十五字以内で書き抜きなさい。（読点を含む）

(8) よくでる 「僕」とシンタが気まずくなった原因は何だったのか。文章中の言葉を使って説明しなさい。

1 (1)各5点、(8)20点、他各10点

(1) ⓐ	(1) ⓑ	(1) ⓒ	(1) ⓓ	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
こわ	おどろ	嫌	ちが	ああ、けんかできたら楽だろうな。	エ	(例)何もせずに気まずいままでいるのがいやだったから。	必 死	驚いた	思ったより 、大きな声 が出た から。	(例)おたがいに、自分と違うところを発見するのが怖いと思っていたこと。

☆(2) 指示する語句はたいてい前の内容を指すが、ここではあとの内容を指している。
☆(4) ――線②のある段落から、「僕」の心情を読み取る。
☆(5) 気まずくなったきっかけの「国語の小説」の話をどのように切り出したかが書かれている部分に注目する。
☆(8) 二人の会話に注目する。二人とも同じことを気にしていたあまりに気まずくなってしまったのである。

3

教科書 P.32〜33・38〜39・40　光村 国語中1

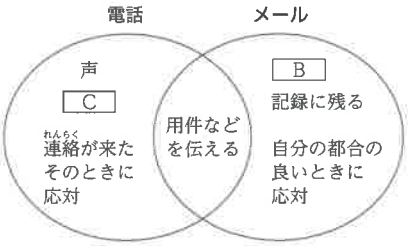
学びをひらく　情報整理のレッスン 比較・分類／漢字1 漢字の組み立てと部首／漢字に親しもう1

学習した日　月　日

時間25分　/100点

1 次の文章と図について、あとの問いに答えなさい。

だれかに用件を伝える手段として、電話やメールがあります。どちらも便利ですが、それぞれの特徴を知ったうえで、用件の内容や場合によって使い分ける必要があります。例えば電話は、声で用件を伝えるので、録音でもしない限り記録に残りません。[A]メールは文字で伝えるので、記録として残り、あとで確認できます。したがって、緊急ではないけれども大切な用件を伝えたいときには、メールを使うほうがよいでしょう。



(1) [A]に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア だから　イ つまり　ウ そのうえ　エ いっぽう

(2) よくでる 文章を参考にして、図の[B]・[C]に入る言葉をそれぞれ答えなさい。

(3) この文章と図によると、次のとき、ア電話とイメールのどちらを使うほうがよいですか。記号で答えなさい。

① 来週の部活の予定の変更内容を伝えたいとき。

② 三十分後に始まる会議の司会進行係の代役をたのみたいとき。

③ 一時間目の授業で使うものを忘れて家の人に届けてもらいたいとき。

2 次の問いに答えなさい。

(1) よくでる 次の漢字の部首の名前をひらがなで答えなさい。

① 節　② 助　③ 庁　④ 起

(2) 次の漢字がもつ部首の表す意味をあとから選び、記号で答えなさい。

① 論　② 余　③ 熟

ア 火を表す。　イ 言葉を表す。

ウ 家を表す。　エ 人を表す。

(3) よくでる 次の二つの部分を組み合わせて、漢字を作りなさい。

① 刂 ＋ 半　② 心 ＋ 音　③ 井 ＋ 口

3 次の――線の漢字をひらがなに直しなさい。

(1) 祖父のしゅ味は陶芸だ。

(2) 水墨画の展覧会に行く。

(3) 毎日空手の稽古にはげむ。

(4) 転んで足首を捻挫した。

(5) 骨折ではなく打撲ですんでよかった。

(6) この辺りは紡績工場が多い。

---

1 各5点

(1)	(2)		(3)	
エ	B	文字	①	イ
	C	(例)記録に残らない	②	ア
			③	ア

(1) 二つを比較して述べるときに使う言葉を選ぶ。

(2)(3) 左右を見比べて分類する。それぞれどの観点にたって選ぶべきか考える。

2 各4点

(1)				(2)		(3)	
① たけかんむり	② ちから	③ まだれ	④ そうにょう	① イ	② エ	① 判	② 意
				③ ア		③ 囲	

(2) ②のかんむりのよび名は「ひとやね」だが、「家・屋根」を表すのではないので、注意する。

3 各5点

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
とうげい	すいぼくが	けいこ	ねんざ	だぼく	ぼうせき

4

教科書 P.42〜45　光村 国語中1

新しい視点で　ダイコンは大きな根？

学習した日　月　日

時間25分　/100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

いっぽう、①根の部分は辛いのが特徴です。ダイコンは下にいくほど辛みが増していきます。ダイコンのいちばん上の部分と、いちばん下の部分を比較すると、下のほうが十倍も辛み成分が多いのです。ここには、植物の知恵ともいえる理由がかくされています。

根には、葉で作られた栄養分が豊富に運ばれてきます。これは、いずれ花をさかせる時期に使う大切な栄養分なので、土の中の虫に食べられては困ります。そこで、虫の害から身を守るため、辛み成分をたくわえているのです。②ダイコンの辛み成分は、普段は細胞の中にありますが、虫にかじられて細胞が破壊されると、化学反応を起こして、辛みを発揮するような仕組みになっています。そのため、たくさんの細胞が壊れるほど[A]ことになります。

これらの特徴を活用して調理すると、ダイコンのさまざまな味を引き出すことができます。[B]、大根下ろしを作るときに、③辛いのが好きな人は下の部分が向いていますし、④辛いのが苦手な人は上の部分を使うと辛みの少ない大根下ろしを作ることができます。また、ダイコンを力強く直線的に下ろすと、細胞が破壊されて、より辛みが増します。[C]、円をえがくようにやさしく下ろせば、破壊される細胞が少なくなり、辛みがオサえられるのです。

このように、ダイコンの白い部分は異なる器官から成っていて、器官の働きによって味も違うのです。普段何気なく食べているダイコンも、[D]として観察してみると興味深い発見があります。他の野菜はどうでしょうか。いろいろと調べてみると、これまで気づかなかった野菜の新しいミリョクが見えてくるかもしれません。

（教科書P.44〜45／稲垣栄洋「ダイコンは大きな根？」）

(1) ――線ⓐ〜ⓓの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) よくでる ――線①「根の部分は辛い」理由について説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から指定の字数で書き抜きなさい。

（①一字）で作られ運ばれてきた（②三字）を（③三字）から守るため、（④四字）をたくわえているから。

(3) (2)の理由を、筆者は何と表しているか。文章中から五字で書き抜きなさい。

(4) ――線②「ダイコンの辛み成分」はどのように発揮される仕組みか。文章中から四十字で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

(5) [A]に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 辛みが減る　イ 辛みが増す

ウ 化学反応が停滞する　エ 化学反応が減退する

(6) [B]・[C]に入る言葉を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 逆に　イ さらに　ウ もしくは　エ 例えば

(7) よくでる ――線③「辛いのが好きな人」、④「辛いのが苦手な人」は、それぞれ大根下ろしをどのように下ろせばよいか、説明しなさい。

(8) [D]に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 果物　イ 動物　ウ 植物　エ 食物

---

1 (3)(4)(7)各10点、(4)完答、他各5点

(1)		(2)				(3)	(4)		(5)	(6)		(7)		(8)
ⓐ さいぼう	① 葉	② 栄養分	③ 虫の害	④ 辛み成分	植物の知恵	初め 虫にかじら	終わり うな仕組み		イ	B エ	C ア	③ (例)(ダイコンの)下の部分を力強く直線的に下ろす。	④ (例)(ダイコンの)上の部分を円をえがくようにやさしく下ろす。	ウ
ⓑ こわ														
ⓒ 抑														
ⓓ 魅力														

(2) 次の段落の前半で述べられている、「根」が辛い理由をおさえる。

(3) 「植物の知恵ともいえる理由がかくされて」いるとある。

(4) 「辛み成分」をたくわえている「根」は、どのような場合に「辛み」を出すのかを読み取る。

(7) 下ろす部分と下ろし方によって、味に違いが出てくるのである。

5 新しい視点で ちょっと立ち止まって

教科書 P.46〜51　光村 国語中1

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

上の図を見てみよう。ⓐ化粧台の前に座っている女性の絵が見えるであろう。[A]この図も、もう一つの絵をかくしもっている。目を遠ざけてみよう。[B]、たちまちのうちに、この図はどくろをえがいた絵に変わってしまう。同じ図でも、近くから見るか遠くから見るかによって、全く違う絵として受け取られるのである。

このことは、なにも絵に限ったことではない。遠くから見れば秀麗な富士山も、近づくにつれて、岩石の露ⓑ出した荒々しい姿に変わる。また、遠くから見ればきれいなビルも、近づいて見ると、ひび割れてすすけた壁面のビルだったりする。

私たちは、ひと目見たときの印象にⓒシバられ、一面のみを捉えて、その物の全てを知ったように思いがちである。しかし、一つの図でも風景でも、見方によって見えてくるものが違う。[C]、物を見るときには、ちょっと立ち止まって、他の見方を試してみてはどうだろうか。中心に見るものを変えたり、見るときのⓓキョリを変えたりすれば、その物の他の面に気づき、新しい発見の驚きや喜びを味わうことができるだろう。

（教科書P.48〜49／桑原茂夫「ちょっと立ち止まって」）

(1) ――線ⓐ〜ⓓの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ――線「上の図」は二通りに見ることができるが、それぞれどんな絵に見えるか。文章中から①十五字と②九字で書き抜きなさい。

(3) よくでる [　] A〜Cに入る言葉を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア そこで　イ そのうえ　ウ すると　エ ところが

(4) よくでる 筆者は「上の図」の他に、「富士山」や「ビル」を例に挙げているが、これらを通じてどのようなことを述べようとしているか。「同じものでも～」に続く形で答えなさい。

(5) 筆者はこの文章で、私たちの物の見方について問題点を挙げている。それが書かれている一文を文章中から抜き出し、初めの五字を答えなさい。（読点を含む）

(6) よくでる 筆者が述べていることとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ひと目見たときの印象は大事で、その直感を養うべきである。

イ さまざまな角度から物を見ると、正しい判断ができなくなる。

ウ 視点を変えて見てみると、その物の違う側面が発見できる。

エ 立ち止まって考え直してみると、物事の真の姿が見えてくる。

1 (1)各5点、他各10点

(1)		(2)		(3)			(4)	(5)	(6)
ⓐ	ⓑ	①	②	A	B	C			
けしょう	ろしゅつ	化粧台の前に座っている女性の絵	どくろをえがいた絵	エ	ウ	ア	同じものでも ㈹近くから見るか遠くから見るかによって、見えてくるものが違うこと。	私たちは、	ウ
ⓒ	ⓓ								
縛	距離								

★(3) 空欄の前後の内容の関係を捉える。Aは、「化粧台……絵」が見えるが、「もう一つの絵をかくしもっている」、Bは「目を遠ざけて」みると、「この図は……変わってしまう」という文脈である。Cは「見方によって……違う」ので、「物を……どうだろうか」と提案している。

★(4) 「絵に限ったことではない」ことの例として「富士山」と「ビル」を挙げている。どのようなことが「絵に限ったことではない」のかをおさえる。

★(6) 筆者は、「見方によって見えてくるものが違う」ことを例に、物事を別の視点から見ることの大切さを述べている。

6 新しい視点で 思考のレッスン1 意見と根拠／漢字に親しもう2／文法への扉1 言葉のまとまりを考えよう

教科書 P.52〜53・58・59・238〜241　光村 国語中1

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 よくでる 次の意見に対して説得力のある根拠をあとから選び、記号で答えなさい。

(1) 今年の体育祭では、部活対抗リレーを種目の一つに加えたらよいと思う。

ア 昨年部活対抗リレーをやったら盛り上がったから。

イ 種目が多ければ多いほど楽しい体育祭になるから。

ウ やりたい種目のアンケートの結果、一番だったから。

エ 先生が提案した種目だから。

(2) 中学生は最低七時間は睡眠をとったほうがよいと思う。

ア 両親がいつもそう言っているから。

イ 睡眠の専門研究機関でそうすすめているから。

ウ 周りの友達も必ず七時間は寝ていると言っているから。

エ 七時間は眠らないと次の日眠くてしかたないから。

(3) 図書室での本の貸出期間を少し長くしたほうがよいと思う。

ア 貸出期間を長くすれば、本を借りる人が増えるかもしれないから。

イ 今までの貸出期間だと、期間内に返却する人が多いから。

ウ 三人に一人が読み切れずに同じ本を続けて借りているから。

エ 市の図書館の貸出期間より長くすべきだから。

1 各10点

(1)	(2)	(3)
ウ	イ	ウ

★(1)(2) 一般的な根拠を選ぶ。

★(3) 貸出期間を長くするのは、今までの期間では短いから。何をするのに短くて、長くすることでどのようなことが解消されるのかを考える。

2 次の――線の漢字をひらがなに直しなさい。

(1) 砲丸投げの選手になりたい。

(2) 父はプロ野球の審判を務めている。

(3) ついに連覇を果たす。

(4) 海浜公園で遊ぶ。

(5) 黒酢ドリンクを毎日飲む。

(6) 光沢のある生地でドレスを作る。

2 各5点

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
ほうがん	しんぱん	れんぱ	かいひん	くろず	こうたく

3 次の問いに答えなさい。

(1) 次の文は、あとのどの言葉を説明したものか。記号で答えなさい。

① 一まとまりの内容を音声で表したもの。

② 発音や意味のうえで不自然にならない範囲でできるだけ短く区切ったまとまり。

③ 一まとまりの内容を文字で表したもの。

④ 言葉の意味を壊さない範囲で一番細かく分けたもの。

⑤ 一まとまりの内容を表す一続きの言葉。

ア 文章　イ 談話　ウ 文　エ 文節　オ 単語

(2) よくでる 次の文を文節に区切り、その数を漢数字で答えなさい。

① 明日こそ早起きをしようと思う。

② 父も母も用があって出かけている。

(3) 次の文を単語に区切り、その数を漢数字で答えなさい。

低い空から大つぶの雨が降る。

3 各5点

(1)					(2)		(3)
①	③	⑤	②	④	①	②	
イ	ア	ウ	エ	オ	四	六	八

★(2) 「ね」「さ」を入れて区切ってみる。

① 明日こそ／早起きを／しようと／思う。

② 父も／母も／用が／あって／出かけて／いる。

★(3) 低い／空／から／大つぶ／の／雨／が／降る。

7

教科書 P.60〜61・62〜63・64〜66・68〜72

情報社会を生きる／言葉に立ち止まる

情報を集めよう／情報を読み取ろう／情報を引用しよう／詩の世界

学習した日　月　日

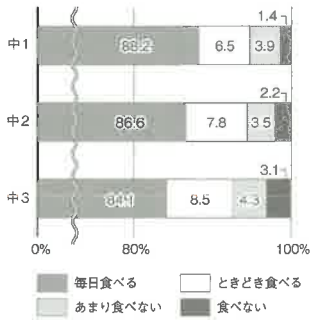
光村 国語中1

時間25分　/100点

1 次の文章の（　）に入る言葉を【資料】から読み取って書きなさい。

【資料】から、朝食を「毎日食べる」生徒は、どの学年も約（①）割を超えていることがわかる。
また、学年が上がるにつれて、「毎日食べる」生徒が（②）、「食べない」生徒が（③）ていることが読み取れる。

【資料】あなたは朝食を食べますか（学年別の割合）



（文部科学省資料より作成）

1 ①20点、他10点

①	②	③
8（八）	減り（減って）	増え

☆① どの学年も「毎日食べる」と答えた割合は80％を超えている。
☆②③ 学年が上がるにつれて増えている項目、減っている項目に注目する。

2 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

未確認飛行物体　入沢康夫

①薬缶だって、
空を飛ばないとはかぎらない。
水のいっぱい入った薬缶が
夜ごと、こっそり台所をぬけ出し、
町の上を、
畑の上を、また、つぎの町の上を
②心もち身をかしげて、
一生けんめいに飛んで行く。
天の河の下、渡りの雁の列の下、
人工衛星の弧の下を、
息せき切って、飛んで、飛んで、
③（でももちろん、そんなに速かないんだ）
そのあげく、
砂漠のまん中に一輪咲いた淋しい花、
大好きなその白い花に、
水をみんなやって戻って来る。

（教科書P.70〜71／「詩の世界」）

(1) ——線①「薬缶だって、／空を飛ばないとはかぎらない。」とあるが、作者は薬缶は何のために空を飛ぶとうたっているか。次の文の（　）にあてはまる言葉を、詩の中の言葉を使って十五字以内で書きなさい。
砂漠のまん中に（　　）ため。

(2) ——線②「一生けんめいに飛んで行く。」と同じ様子を描いている部分を詩の中から一行で書き抜きなさい。

(3) よくでる ——線③「でももちろん、そんなに速かないんだ」を朗読するとき、どのように読むとよいか。次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 大きな声で堂々と読む。　イ 声を低めてつぶやくように読む。
ウ 高い声で明るく読む。　エ 小さい声でかみしめるように読む。

2 各20点

(1)		(2)	(3)
(例)咲いている		息せき切って、飛んで、飛んで、	イ
白い花に水			
をやる			

☆(1) 最後の三行に、「薬缶」が飛ぶ目的がうたわれている。
☆(2) 「息せき切って」とは「非常に急いで息を切らして」という意味。さらに「飛んで、飛んで、」と反復法を用いて、「薬缶」がけんめいに飛んでいる様子をうたっている。
☆(3) かっこつきであることに注目。心の中の言葉と捉えられるので、声を低めて読むとよい。

8

教科書 P.73〜76

言葉に立ち止まる

比喩で広がる言葉の世界

学習した日　月　日

光村 国語中1

時間25分　/100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

Ⅰ 図のような形の部品をあなたならどのように説明するだろうか。真ん中に穴の空いた丸いドーナツを相手が知っているならば、一言で「ドーナツのような形」ということができる。しかし、もし比喩を使わないとしたら、言葉をツくしても、伝えることは難しいのではないだろうか。このように、比喩には、形状をわかりやすく伝える効果がある。

Ⅱ ［　］、比喩には、物事の特性をより生き生きと印象づける効果もある。例えば、「雷のような大声」という場合、声の大きさを響き渡る雷鳴にたとえているだけでなく、雷のもつ激烈さや迫力、おそろしさなどのイメージも重ねている。

Ⅲ 実は、こうした比喩の発想は、普段私たちが比喩だと認識していないような表現の中にも生きている。例えば、「頭の中に入れておく」「そのことで頭の中がいっぱいだ」「キンチョウして、頭の中が空っぽになる」などという表現では、「頭」が「入れ物」、知識や感情が「その中に入っているもの」として捉えられている。「胸がいっぱいだ」「心が満たされる」なども同様だろう。

Ⅳ さらに、「深く感謝する」「深い感動」のような表現にも、比喩の発想が生かされている。本来、「深い」は、「深い池」のように、表面からの距離が離れている様子を表す。しかし、表面からはうかがい知れないほどの中身があるといった意味で、精神活動についても「深さ」が用いられる。思考や感情など、形のないものでも、こうした比喩の発想によって表現していくことができる。

（教科書P.74〜75／森山卓郎「比喩で広がる言葉の世界」）

(1) ——線ⓐ〜ⓓの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) よくでる ——線①「図のような形の部品」はどのようなことを説明するために挙げた例か。それを説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から十五字以内で書き抜きなさい。
比喩には（　　）があることを説明するため。

(3) ［　］に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。
ア だから　イ また　ウ つまり　エ それとも

(4) よくでる ——線②「こうした比喩の発想」とは、どのようなことを指しているのか。それを説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から四字で書き抜きなさい。
AをBにたとえるとき、Bのもつ（　）に重ねて表現していること。

(5) ——線③「同様だろう」とは、どういうことか。それを説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を文章中から書き抜きなさい。
（①）も（②）も、「頭」と同じように「（③）」として捉えられていること。

(6) ——線④「深い」のここでの意味を、「～という意味。」に続く形で文章中から二十一字で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

(7) よくでる Ⅲ・Ⅳ段落を通して、筆者はどのようなことを述べたかったのか。文章中の言葉を使って説明しなさい。

1 (1)各5点、他各10点　(5)①②順不同、(6)完答

(1)		(2)	(3)	(4)	(5)			(6)		(7)
ⓐ 尽	ⓒ はくりょく	形状をわかりやすく伝える効果	イ	イメージ	① 胸	② 心	③ 入れ物	初め 表面からは	終わり 中身がある	(例)思考や感情などの形のないものも、比喩の発想によって表現できること。という意味。
ⓑ ひび	ⓓ 緊張									

☆(2) Ⅲ段落の最後の文にまとめられている。
☆(3) 空欄の前後で、比喩の二つの効果を並べている。
☆(4) 「雷のような大声」を例に挙げて説明している内容を捉える。
☆(5) ——線③の直前から、空欄の前後の言葉を手がかりにして考える。
☆(6) 筆者は、「深い」の本来の意味を述べたあと、「しかし」とつないでもう一つの意味を説明している。
☆(7) 最後の一文に注目する。なるべく簡潔にまとめるようにする。

9

言葉に立ち止まる

言葉1 指示する語句と接続する語句／言葉を集めよう もっと「伝わる」表現を目ざして

教科書 P.77〜79・80〜81　光村 国語中1

学習した日　　月　　日

時間25分　/100点

1 次の問いに答えなさい。

(1) よくでる 次の文の――線が指し示している内容を書き抜きなさい。

① 父は一枚の古い写真を僕に見せた。そこには学生時代の父と母が写っていた。

② おじは、貧困に苦しむ子供たちを救うために世界中を飛び回る。僕も将来そんな仕事につきたい。

③ 母は私の顔をしばらくまじまじと見てからこう言った。「今日何かうれしいことがあったでしょう。」

(2) 次の文の（　）にあてはまる言葉をあとから選び、記号で答えなさい。

① その日は朝から雨が降っていた。（　）夜には風も強くなった。

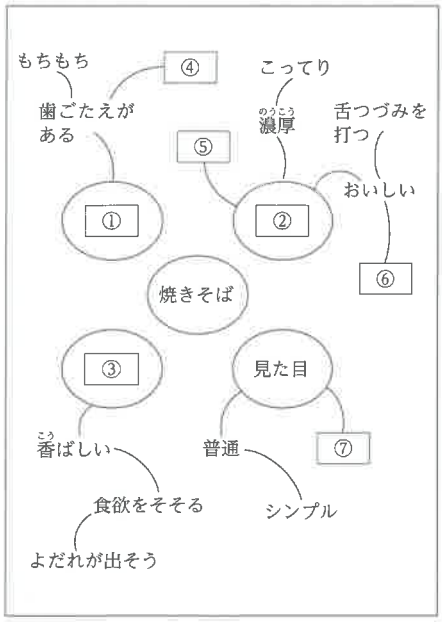
② りんごを食べようか。（　）バナナにしようかな。

③ 昨日から歯が痛む。（　）歯医者へ行った。

ア そこで　イ そのうえ　ウ しかし　エ それとも

2 七海さんのクラスでは、各自が思い出に残っている食べ物を紹介することになった。そこで七海さんは縁日で食べた焼きそばのおいしさを紹介することにした。

(1) 次の言葉を集めたメモの［　］①〜⑦に入る言葉をあとから選び、記号で答えなさい。



ア 香り　イ 味　ウ 食感　エ 少し固め
オ ほっぺたが落ちそう　カ 茶色　キ 甘辛い

(2) 七海さんは焼きそばのおいしさを紹介する文を次のように書いた。［　］に入る言葉を、右のメモを参考にしながら書きなさい。

縁日では、焼きそばの香ばしいにおいは食欲をそそります。［　　］

1 (1)各10点、(2)各5点

(1)				(2)	
①	②	③		①	③
一枚の古い写真	貧困に苦しむ子供たちを救う（ために世界中を飛び回る）	今日何かうれしいことがあったでしょう（。）		イ	ア
	② エ			② エ	

2 (1)各5点、(2)20点

(1)				(2)
①	③	⑤	⑦	
ウ	ア	キ	カ	
② イ	④ エ	⑥ オ		

(例)見た目はシンプルですが、もちもちした歯ごたえがあるめんと、濃厚でこってりしたソースとのみごとなハーモニーには思わず舌つづみを打ってしまいました。

★(1) メモの言葉と選択肢の言葉の類似性に注目する。
★(2) 香り以外の内容を、メモをもとにしてまとめる。

10

表現生活を豊かに

本の中の中学生　あと少し、もう少し

教科書 P.84〜85　光村 国語中1

学習した日　　月　　日

時間25分　/100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ベンチコートを脱いで、軽くジャンプをする。［　］風をウデに感じる。念入りにアップして温めたはずの身体なのに、寒さのせいかうっすら鳥肌が立つ。

周りに立つ十七人の選手は、みんな一区にふさわしいはなやかさや勢いがある。そこにいるだけで人を引きつける、桝井みたいに。やっぱり僕とは違うんだ。そう気後れしそうになって、小さく深呼吸をした。この地域は山に囲まれているから、競技場の周辺も駅伝コースも緑がふんだんにある。澄み切った空気が身体の奥まで澄ましてくれる。

走るのは好きか？　答えはノーだ。こんなに大変でしんどいこと、できればやりたくない。

でも、駅伝は好きか？　そうなると、答えはイエスになる。任される。襷をつないでいく。その感覚は好きだ。駅伝をしているときだけは、僕にも仲間とよんでも許される存在がいるんだと思える。

（中略）

「設楽君、がんばって。」

そんな中、上原先生は願い事をたくさんかのように言った。具体的じゃないいつもどおりの言葉。だけど、僕はがんばってと言ってもらえることが、幸せなことだと知っている。

「うん。」

僕は声に出してうなずいた。

（教科書P.84〜85／瀬尾まいこ「あと少し、もう少し」）

(1) ⓐ・ⓑの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ［　］に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 生あたたかい　イ しめった
ウ ひんやりした　エ やさしい

(3) ――線①「周りに立つ十七人の選手」を見て、「僕」はどのような気持ちになったか。それを説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から指定の字数で書き抜きなさい。

やっぱり自分とは（①二字）と、（②七字）なった。

(4) ――線②「小さく深呼吸をした」のは何のためか。簡単に説明しなさい。

(5) ――線③「澄み切った……澄ましてくれる」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 純粋に走ることだけに向き合わせてくれること。
イ 興奮で熱くなった身体をさましてくれること。
ウ きれいな空気が病気を治してくれること。

(6) よくでる ――線④「答えはイエスになる」とあるが、「僕」はなぜ駅伝が好きなのか。その理由を表した一文を文章中から抜き出し、初めの五字を答えなさい。

(7) ――線⑤「がんばって」と声をかけてもらうことを、「僕」はどういうことと受け止めているか。文章中から五字で書き抜きなさい。

(8) よくでる この場面での「僕」の心情の変化として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 冷静→興奮　イ 動揺→冷静　ウ 興奮→動揺

1 (1)各5点、(4)(8)15点、他各10点

(1)		(2)	(3)		(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
ⓐ	ⓑ		①	②					
ぬ	腕	ウ	違う	気後れしそうに	(例)気分転かんをするため。	ア	駅伝をして	幸せなこと	イ

★(1) 直後の文に「寒さのせいか」とあることに注目する。
★(3) ――線①から――線②までから、自分と違ってはなやかさや勢いのある選手たちを見て気後れしそうになっていることを読み取る。
★(4) スタートを前に「気後れしそうになっ」たのを、深呼吸することで、澄み切った空気を吸って平静さを取り戻そうとしたのである。
★(5) 直後で「僕」が自問自答しながら、「走る」ことは嫌いだが、「駅伝」は好きだという気持ちを確認していることから考える。
★(6) 「僕」は、「任される」、「襷をつないでいく」という感覚が好きだと思っている。なぜこの「感覚が好き」なのか、さらにそのあとの一文に書かれている。
★(8) 文章前半の、スタートラインに立ったときの「僕」の気持ちと、後半の、上原先生のかけた言葉に対して声に出して応じたときの気持ちを捉える。

11 大人になれなかった弟たちに……①

教科書 P.96〜105　心の動き

学習した日　月　日　光村 国語中1

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

①みんなにはとうていわからないでしょうが、そのころ、甘いものはぜんぜんなかったのです。あめもチョコレートもアイスクリームも、おカシ③はなんにもないころなのです。食いしん坊だった僕には、甘い甘い弟のミルクは、よだれが出るほど飲みたいものでした。

母は、よく言いました。ミルクはヒロユキのご飯だから、ヒロユキはそれしか食べられないのだからと――。

でも、僕はかくれて、ヒロユキの大切なミルクをヌ⑥み飲みしてしまいました。それも、何回も……。

僕にはそれがどんなに悪いことか、よくわかっていたのです。②でも、僕は飲んでしまったのです。僕は弟がかわいくてかわいくてしかたがなかったのですが、……それなのに飲んでしまいました。

あまり空襲⑤がひどくなってきたので、母は疎開⑥しようと言いだしました。それである日、祖母と四歳の妹に留守番を頼んで、母が弟をおんぶして僕と三人で、親戚のいる田舎へ出かけました。[　]、親戚の人は、はるばる出かけてきた母と弟と僕を見るなり、うちに食べ物はないと言いました。僕たちは食べ物をもらいに行ったのではなかったのです。引っ越しの相談に行ったのに。母は④それを聞くなり、僕に帰ろうと言って、くるりと後ろを向いて帰りました。

①そのときの顔を、僕は今でも忘れません。強い顔でした。でも悲しい悲しい顔でした。僕はあんなに美しい顔を見たことはありません。僕たち子供を必死で守ってくれる母の顔は、美しいです。僕はあのときのことを思うと、いつも胸がいっぱいになります。

（教科書P.98〜99／米倉斉加年（よねくらさかね）「大人になれなかった弟たちに……」）

(1) ――線ⓐ〜ⓓの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ――線①「みんなにはとうていわからないでしょうが」とあるが、「僕」がこう考えるのはなぜかを説明しなさい。

(3) 中心 ――線②「でも、僕は飲んでしまったのです」とあるが、なぜか。その理由を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 弟の甘いミルクが飲みたくてたまらなかったから。
イ 弟が甘いミルクを飲んでいるのが腹立たしかったから。
ウ かくれて飲めば、誰にも見つからないと思ったから。

(4) [　]に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア さて　イ たとえば　ウ そして　エ ところが

(5) ――線③「見るなり」の意味を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 見るとすぐに　イ 見るふりをして　ウ 見ないようにして

(6) ――線④「それ」が指す内容をまとめた次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から指定の字数で書き抜きなさい。

（①四字）が言った（②九字）という言葉。

(7) 中心 ――線⑤「そのときの顔」はどんな顔か。文章中から三つ書き抜きなさい。

(8) 中心 ――線⑥「胸がいっぱいになります」を説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から指定の字数で書き抜きなさい。

（①二字）を必死で守ろうとした（②一字）の愛情に心打たれている。

1 (1)(4)(5)各5点、他各10点（(7)順不同・完答）

(1)	ⓐ	菓子
	ⓑ	盗
	ⓒ	くうしゅう
	ⓓ	そかい
(2)		(例)今は甘いものが簡単に手に入るから。
(3)		ア
(4)		エ
(5)		ア
(6)	①	親戚の人
	②	うちに食べ物はない
(7)	・	強い顔
	・	悲しい悲しい顔
	・	美しい顔
(8)	①	子供
	②	母

(1) 「僕」にとって弟のミルクは、飲むのは「悪いこと」とわかっていながらも「よだれが出るほど飲みたいもの」であった。

(7) 自分が子供を守らなければと思う「母」の気持ちが表情に表れている。

(8) 前の文に「僕たち……美しいです」とある。自分たち子供に対する母の愛情の深さに「胸がいっぱい」になったのである。

12 大人になれなかった弟たちに……②

教科書 P.96〜105　心の動き

学習した日　月　日　光村 国語中1

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ヒロユキは死にました。

暗い電気の下で、小さな小さな口に綿に含ませた水を飲ませた夜を、僕は忘れられません。泣きもせず、弟は静かに息をひきとりました。母と僕に見守られて、弟は死にました。①病名はありません。栄養失調です……。

死んだ弟を母がおんぶして、僕は片手にやかん、そして片手にヒロユキの身の回りのものを入れた小さなふろしき包みを持って、家に帰りました。

白いカ③ワいた一本道を、三人で山の村に向かって歩き続けました。バスがありましたが、母は弟が死んでいるのでほかの人に遠慮⑤したのでしょう、三里の道を歩きました。

（中略）

家では祖母と妹が、泣いて待っていました。部屋を貸してくださっていた農家のおじいさんが、スギイタ⑥を削⑦って小さな小さな棺を作っていてくださいました。弟はその小さな小さな棺に、母と僕の手でねかされました。②小さな弟でしたが、棺が小さすぎて入りませんでした。

母が、大きくなっていたんだね、とヒロユキのひざを曲げて棺に入れました。そのとき、母は初めて泣きました。

父は、戦争に行ってすぐ生まれたヒロユキの顔を、[　]見ないままでした。

弟が死んで九日後の八月六日に、ヒロシマに原子爆弾が落とされました。その三日後にナガサキに――。

そして、六日たった一九四五年八月十五日に戦争は終わりました。

③僕はひもじかったことと、弟の死は一生忘れません。

（教科書P.102〜103／米倉斉加年（よねくらさかね）「大人になれなかった弟たちに……」）

(1) ――線ⓐ〜ⓓの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) 中心 ――線①「病名はありません。栄養失調です……」にこめられている作者の思いとして適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 薬があったら助かったのに。　イ 栄養失調になるなんて信じられない。
ウ 病名がないのはおかしい。　エ 戦争がなければ死なずにすんだのに。

(3) ――線②「小さな弟でしたが、……入りませんでした」から、弟がどうなっていたことがわかるか。「食べ物」という言葉を使って書きなさい。

(4) [　]に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア しばらく　イ とうとう　ウ しみじみ　エ めったに

(5) 中心 ――線③「僕はひもじかったことと、弟の死は一生忘れません」に表れている作者の気持ちを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 食べ物の大切さをみんなによく知ってほしいと思う気持ち。
イ 戦争をにくみ、二度と戦争が起こらないよう強く願う気持ち。
ウ 死んでしまった弟の分もがんばって生きていこうと思う気持ち。

(6) 中心 作者が弟の名前を「ヒロユキ」とカタカナで表記したのはなぜか。その理由を説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を三字以内で書きなさい。

弟以外にも同じように（①）の犠牲（ぎせい）になった（②）や（③）思いをした家族がたくさんいたことを読み手に伝えたかったから。

1 (1)各5点、(3)20点、他各10点

(1)	ⓐ	乾
	ⓑ	えんりょ
	ⓒ	杉板
	ⓓ	けず
(2)		エ
(3)		(例)食べ物を十分にあたえられない中でも大きくなっていたこと。
(4)		イ
(5)		イ
(6)	①	(例)戦争
	②	(例)子供
	③	(例)悲しい

(2) 短い二文を重ねることで、作者の、弟は戦争さえなければ栄養失調などで死ぬことはなかったのに、という悔しい思いが強調されている。

(3) 直後の母の言葉に注目する。栄養失調になるくらい食べ物を十分にあたえられなかったけれども、弟はがんばって成長していたのである。

(4) 父は、ヒロユキが生まれる前に戦地に行き、終戦前にヒロユキは死んでしまったので、結局顔を見ることができなかったという文脈をつかむ。

(5) 作者は、「ひもじかったこと、弟の死」の原因となったことに対して、強いいきどおりを感じているのである。

(6) 漢字で表記した場合、特定の個人をイメージしやすいが、カタカナで表すことで、対象が広がる効果がある。自分の弟について書いているが、同じような経験をした人たちがたくさんいることを暗に示している。

13 星の花が降るころに①

教科書 P.106〜115　心の動き

学習した日　月　日

光村 国語中1

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

お守りみたいな小さなビニール袋をポケットの上からそっとなでた。中には銀木犀の花が入っている。もう香りはなくなっているけれどかまわない。去年の秋、この花で何か手作りに挑戦しようと言ってそのままになっていた。香水はもう無理でも試しにせっけんを作ってみよう、そして秋になったら新しい花を拾って、それでポプリなんかも作ってみよう……そうサソってみるつもりだった。夏実だって、私から言いだすのをきっと待っているはずだ。

夏実の姿が目に入った。教室を出てこちらに向かってくる。

そのとたん、①私は自分の心臓がどこにあるのかがはっきりわかった。どきどき鳴る胸をなだめるように一つ息を吸ってはくと、[A]足をふみ出した。

「あの、夏実——」

私が声をかけたのと、隣のクラスの子が夏実に話しかけたのが同時だった。夏実は一瞬とまどったような顔でこちらを見た後、隣の子に何か答えながら私からすっと顔をソムけた。そして目の前を通り過ぎて行ってしまった。音のないこま送りの映像を見ているように、変に長く感じられた。

騒々しさがやっと耳に戻ったとき、教室の中の②戸部君がこちらを見ていることに気づいた。私はきっとひどい顔をしている。③クチビルがふるえているし、目のふちが熱い。きまりが悪くてはじかれたようにその場を離れると、窓に駆け寄って下をのぞいた。裏門にも、コンクリートの通路にも人の姿はない。どこも強い日差しのせいで、色が飛んでしまったみたい。

④貧血を起こしたときに見える[B]とした光景によく似ている。

私は外にいる友達を探しているふうに熱心に下を眺めた。本当は友達なんていないのに。夏実の他には友達とよびたい人なんてだれもいないのに。

（教科書P.108〜109／安東みきえ「星の花が降るころに」）

(1) ——線ⓐ〜ⓔの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) よくでる ——線①「私は……わかった」とあるが、このときの「私」の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 喜び　イ 緊張　ウ 悲しみ　エ いかり

(3) よくでる [A]に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ぎこちなく　イ さりげなく　ウ なんとなく　エ さっそうと

(4) ——線②「私は……している」とあるが、その理由を説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から指定の字数で書き抜きなさい。

（①二字）に（②一字）をかけたのに（③十六字）ことがショックだったから。

(5) ——線③「きまりが悪くて」とあるが、「きまりが悪い」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 悔しい　イ 具合が悪い　ウ はずかしい　エ うっとうしい

(6) [B]に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 白々　イ 黒々　ウ 赤々　エ 青々

(7) よくでる ——線④「私は……眺めた」とあるが、なぜか。「戸部君」「夏実」「ごまかす」という言葉を使って説明しなさい。

1 (1)各5点、(7)12点、他各9点

(1) ⓐ	ⓑ	ⓒ	ⓓ	ⓔ	(2)	(3)	(4) ①	(4) ②	(4) ③	(5)	(6)	(7)
誘	背	そうぞう	唇	ひんけつ	イ	ア	夏実	声	目の前を通り過ぎて行って しまった	ウ	ア	(例)戸部君に夏実とのやり取りを見られてきまりが悪いので、ごまかすため。

(2) 心臓がどこにあるかわかるほど、どきどきして緊張していることを表している。

(3) 緊張して体もうまく動かない様子である。

(4) 思い切って夏実に声をかけたのに、無視されてしまったことがショックだったのである。

(7) 夏実に無視されたところを戸部君に見られたことに気づいた「私」は、それをごまかそうとして、窓から友達を探すふりをしたのである。

14 星の花が降るころに②

教科書 P.106〜115　心の動き

学習した日　月　日

光村 国語中1

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

運動部のみんなはサバンナの動物みたいで、入れかわり立ちかわり水を飲みにやって来る。水飲み場の近くに座って①戸部君を探した。夏実とのことを見られたのが気がかりだった。繊細さのかけらもない戸部君だから、みんなの前で何を言いだすか知れたものじゃない。どこまでわかっているのか②探っておきたかった。だいたいなんであんな場面をのんびりと③眺めていたのだろう。それを考えると[A]をにぎられた気分になり、八つ当たりとわかってもニクらしくてしかたがなかった。

②戸部君の姿がやっと見つかった。

なかなか探せないはずだ。サッカーの練習をしているみんなとは離れた所で、一人ボールを磨いていた。

サッカーボールはぬい目が弱い。そこからほころびる。だから砂を落としてやらないとだめなんだ。使いたいときだけ使って、手入れをしないでいるのはだめなんだ。いつか戸部君がそう言っていたのを思い出した。

日陰もない校庭の隅っこで背中を丸め、黙々とボール磨きをしている戸部君を見ていたら、なんだか急に自分の考えていたことがひどく小さく、くだらないことに思えてきた。

立ち上がって水道の蛇口をひねった。水を[B]と顔にかけた。冷たかった。溶け出していた④タマシイがもう一度引っ込み、やっと顔の輪郭が戻ってきたような気がした。

（教科書P.109〜111／安東みきえ「星の花が降るころに」）

(1) ——線ⓐ〜ⓓの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ——線①「戸部君」のことを、「私」はどのような人物だと考えているか。それを表している表現を文章中から十字で書き抜きなさい。

(3) [A]に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 汗　イ 力　ウ 弱み　エ 手の内

(4) ——線②「戸部君の姿がやっと見つかった」について、次の問いに答えなさい。

Ⅰ 「私」は、戸部君がどこで何をしている姿を見つけたか。文章中の言葉を使って二十五字程度で説明しなさい。

Ⅱ よくでる 戸部君の姿を見て、「私」の気持ちはどのように変化したか。このことを説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から指定の字数で書き抜きなさい。

（①三字）が自分と（②二字）とのことをどこまで（③六字）のか探っておこうなどと考えていたことが、とても（④五字）ことに思えた。

(5) [B]に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア べたべた　イ ぱしゃぱしゃ
ウ しとしと　エ ぴしゃぴしゃ

(6) よくでる 「私」が自分を取り戻したことを、比喩を用いて表している部分を、文章中から十字で書き抜きなさい。

1 (1)(4)Ⅱ各5点、(4)Ⅰ20点、他各10点

(1) ⓐ	ⓑ	ⓒ	ⓓ	(2)	(3)	(4)Ⅰ (例)	(4)Ⅰ	(4)Ⅰ	(4)Ⅰ	(4)Ⅰ	(4)Ⅰ	(4)Ⅰ	(4)Ⅰ	(4)Ⅰ	(4)Ⅱ ①	(4)Ⅱ ②	(4)Ⅱ ③	(4)Ⅱ ④	(5)	(6)
さぐ	ながい	憎	魂	繊細さのかけらもない	ウ	日陰もない	校庭の隅っこで、黙々とボール磨きをする姿	。							戸部君	夏実	わかっている	くだらない	イ	顔の輪郭が戻ってきた

(4)Ⅱ 戸部君の姿は、「日陰もない」から始まる段落で描かれている。「私」はその姿を見て、「なんだか急に……くだらないことに思えて」きている。

(6) 本来の自分を「顔の輪郭」と表していることを捉える。

15

教科書 P.121〜122・123〜124　光村 国語中1

心の動き

言葉2 方言と共通語／漢字2 漢字の音訓

学習した日　月　日

時間25分　/100点

1 次の問いに答えなさい。

(1) 次の説明は、方言についてのものか、共通語についてのものか。方言ならA、共通語ならBで答えなさい。

① 全国向けのテレビニュースでよく使われる。
② 地域の風土に根ざした独特の表現である。
③ 自分の感覚を実感に即した言葉で表せる。
④ 異なる地域の人々と円滑に交流できる。

(2) 次の言葉を、A方言とB共通語に分けて記号で答えなさい。

ア うっちゃる　イ せともの　ウ かたす
エ ぬれゆき　オ すてる

2 次の問いに答えなさい。

(1) 次の——線の漢字は、A音読み、B訓読みのどちらにあたるか。それぞれ記号で答えなさい。

① ボールが白線の外側に落ちる。
② 相手の目を見て話す。
③ 夏至を過ぎると日がだんだん短くなる。

(2) 次の——線の熟語の読み方を答えなさい。

① ア みんなでゴミの分別を行う。
　イ 分別のある行動をとることが大切だ。
② ア 今度の対決はたいへん見物だ。
　イ 綿あめを食べながら花火を見物する。

3 次の——線の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(1) お互いに気持ちを伝え合う。
(2) 湿ったタオルを干す。
(3) 繊細な感覚の持ち主。
(4) このカーテンは光を遮る。
(5) 長い間受けツがれてきた事業。
(6) ギコウをこらした革細工。
(7) イベントをキカクする。

1 各5点（(2)AB各順不同・完答）

(1) ①	(1) ②	(2) A	(2) B
B	A	ア、ウ、エ	イ、オ
(1) ③	(1) ④		
A	B		

アは「捨てる」、ウは「片づける」の方言。エは東北地方で使われる、湿り気のある重い雪のこと。

2 各5点

(1) ①	(1) ②	(1) ③	(2) ① ア	(2) ① イ	(2) ② ア	(2) ② イ
B	B	A	ぶんべつ	ふんべつ	みもの	けんぶつ

①アは種類によって分けることを表す。イは道理をわきまえていることを表す。②アは見る価値があるものを表す。イは見て楽しむことを表す。

3 各5点

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
たが	しめ	せんさい	さえぎ	継	技巧	企画

16

教科書 P.126〜135　光村 国語中1

筋道を立てて

「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ①

学習した日　月　日

時間25分　/100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私は二〇〇五年から毎年、長野県軽井沢町のとある森に巣箱を掛けて、ハンショクしたシジュウカラの様子を観察してきました。二〇〇八年六月のある日、研究の転機がおとずれました。いつものように観察に向かうと、シジュウカラの巣箱にアオダイショウが迫り、ひなを食べようとしているところに出くわしたのです。そのとき、親鳥はヘビに接近し、つばさを広げて威嚇しながら、けたたましく「ジャージャー」と鳴いていました。それまで、朝から夕方までシジュウカラを観察してきましたが、こんな鳴き声を聞いたのは初めてでした。シジュウカラの卵やひなを襲う天敵には、ヘビの他にカラスやネコ、イタチ類が挙げられます。親鳥は、これらの天敵には「ピーツピ」と鳴くのに対し、ヘビにだけは「ジャージャー」と鳴いていたのです。鳴き声を録音し、コンピュータでブンセキしてみても、その違いは明らかでした。

私は、これらの観察から、シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声が、警戒すべき対象としての「ヘビ」を意味する「単語」になっているのではないかという仮説を立てました。ここでの「単語」とは、「ヘビ」や「タカ」といった異なる意味を伝える一つ一つの鳴き声だと定義することにします。

では、シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声がヘビを示す「単語」であるかどうかを調べるには、どうすればよいのでしょうか。鳴き声を発する状況を記録するのはもちろんですが、それだけでは意味を確かめることはできません。ヘビの存在をつがい相手に伝えるために「ジャージャー」と鳴いているのか、それとも単なる恐怖心から鳴き声を発しているのかが区別できないからです。そこで私は、鳴き声を聞いたシジュウカラが、どのように振る舞うのかを詳しく調べてみることにしました。

（教科書P.127〜128／鈴木俊貴『「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ』）

(1) ——線ⓐ〜ⓓの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ——線①「研究の転機」とあるが、どのようなことが転機となったのか。このことを説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から十四字で書き抜きなさい。（記号を含む）
シジュウカラの（　）を初めて聞いたこと。

(3) ——線②「これらの天敵」が指すものを、文章中から書き抜きなさい。

(4) ——線③「その違いは明らかでした」という結果から、筆者はどのような仮説を立てたか。その内容が具体的に書かれた一文を文章中から抜き出し、初めの五字を答えなさい。（読点を含む）

(5) ——線④「それ」はどのようなことを指しているか。文章中の言葉を使って説明しなさい。

(6) ——線⑤「鳴き声を……調べてみることにしました」とあるが、このように調べることにしたのは何のためか。それを説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から指定の字数で書き抜きなさい。
「ジャージャー」という鳴き声がヘビの存在を（①九字）ために鳴いているのか、（②六字）から鳴いているのかを（③二字）するため。

1 (1)各5点、(5)20点、他各10点

(1) ⓐ	(1) ⓑ	(1) ⓒ	(1) ⓓ	(2)	(3)	(4)	(5)	(6) ①	(6) ②	(6) ③
繁殖	いかく	分析	けいかい	「ジャージャー」という鳴き声	カラスやネコ、イタチ類	私は、これ	(例)鳴き声を発する状況を記録すること。	つがい相手に伝える	単なる恐怖心	区別

筆者は、ヘビを威嚇しているシジュウカラの鳴き声を初めて聞いて転機を感じている。その鳴き声について十四字で表している部分を探す。

(3)「ピーツピ」と鳴くときの天敵が答えとなる。

(4)「仮説」という言葉に注目する。

(5)文末に気をつけて解答する。

(6)シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声がヘビを示す「単語」かどうかを調べようとしていることをおさえる。

17 筋道を立てて「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ②

教科書 P.126〜135　光村 国語中1

学習した日　月　日

時間25分　/100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

そこで今度は、「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラが、実際にヘビの姿をイメージしているのか検証しようと考えました。私たちの場合、単語から得たイメージによって、物の見え方が変わってしまうことがあります。例えば、道路に落ちた木の枝でも、ダレかがそれを指して「ヘビだ！」と言ったら、周りの人は思わず身構えることでしょう。これは、「ヘビ」という単語からその姿をイメージし、枝を一瞬、本物のヘビと見間違えてしまうからです。同じように、シジュウカラにも［A］が観察されれば、「ジャージャー」という鳴き声からヘビの姿をイメージした証拠になると考えられます。

実験の手順は、以下のとおりです。［B］、二十センチメートルほどの長さの小枝にひもを付け、木の幹に沿うようにぶら下げます。そして、スピーカーから「ジャージャー」という鳴き声を流します。そのうえで、遠くからひもをゆっくりと引き、まるで幹をはい上るヘビのように小枝を動かしました。

すると、「ジャージャー」という鳴き声を聞かせたシジュウカラは、ヘビのように動く小枝に近づき、確認することがわかりました。［C］、「ジャージャー」以外の鳴き声を聞かせた場合、小枝に接近するシジュウカラはほとんどいませんでした。また、「ジャージャー」という鳴き声を聞かせながら、小枝を大きく左右に揺らし、ヘビに似ていない動きとして見せた場合も、同様の結果となりました。

つまり、シジュウカラは、「ジャージャー」という鳴き声から幹をはうヘビの姿をイメージし、それに似た動きをする小枝をヘビと見間違えたのだと解釈できます。

（教科書P.130〜132／鈴木俊貴「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」）

(1) ——線ⓐ・ⓑの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) よくでる ——線①「道路に落ちた木の枝」は、何を説明するための例か。次の文の（　）にあてはまる言葉を文章中から書き抜きなさい。単語から得た（①）によって、（②）が変わることを説明するための例。

(3) ［A］に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 見え方　イ 変化　ウ 見間違い　エ イメージ

(4) よくでる ——線②「実験」について、次の問いに答えなさい。
① 何のための実験か。文章中の言葉を使って、説明しなさい。
② 「実験」の結果をまとめた次の表の（　）にあてはまる言葉を、ア接近する、イほとんど接近しない、のどちらかを選び、記号で答えなさい。

小枝 ＼ 鳴き声	ジャージャー	ジャージャー以外
ヘビに似た動き	小枝に（Ⅰ）	小枝に（Ⅱ）
ヘビに似ていない動き	小枝に（Ⅲ）	

(5) ［　］B・Cに入る言葉を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。
ア いっぽう　イ または　ウ まず　エ だから

(6) よくでる ——線③「『ジャージャー』という……見間違えたのだ」から言えることをまとめた次の文の（　）にあてはまる言葉を十字以内で書きなさい。
シジュウカラが「ジャージャー」という鳴き声を聞いたとき、（　　）ということ。

1 (1)(4)②各5点、(6)15点、他各10点

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
ⓐ 誰　ⓑ かいしゃく	① イメージ　② 物の見え方	ウ	① (例)「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラが、実際にヘビの姿をイメージしているのかを検証するための実験。	② Ⅰ ア　Ⅱ イ　Ⅲ イ	B ウ　C ア	(例)ヘビを意味する単語

ポイント (2) 私たち人間のくせを「例えば」とつないで説明している。
ポイント (3) ここで話題になっているのはヘビと見間違うかどうかである。
ポイント (4) ①前段落の最初に一文で、これから検証することが書かれている。②鳴き声の種類と小枝の動きの組み合わせで得た結果を読み取る。
ポイント (6) 人間が「ヘビだ！」と言われてヘビという単語からヘビの姿をイメージするのと、シジュウカラが「ジャージャー」と鳴く声を聞いてその鳴き声からヘビの姿をイメージするのとが同じだったのである。

18 筋道を立てて 思考のレッスン2 原因と結果／漢字に親しもう3

教科書 P.136〜137・144　光村 国語中1

学習した日　月　日

時間25分　/100点

1 次の問いに答えなさい。

(1) 次の文から、話の筋道に無理があるものを二つ選び、記号で答えなさい。
ア 毎日早寝をするようにしたら、早起きができるようになった。
イ 今日学校の帰りに雨に降られたのは、かさを忘れたからだ。
ウ 部活の練習で私の帰りが遅くなったので、母が心配した。
エ 最近中学生で視力の低下が目立っているのは、スマホやパソコンを見る時間が長くなっていることが原因の一つだ。
オ 国語の成績を上げるには、読書が有効らしい。国語の成績を上げることが、読書をたくさんすることにつながるのだ。

(2) よくでる 次の二つの文を、（　）内の言葉を使って、筋道が通るように一文に直しなさい。
① （ので）
・今日は一日中ねむかった。
・夕べ夜ふかしをした。
② （によって）
・宣伝に力を入れた。
・店が繁盛した。
③ （ため）
・野菜の値段が上がった。
・今年は天候不順だった。

1 各10点（(1)順不同）

(1)	(2)①	(2)②	(2)③
イ・オ	(例)夕べ夜ふかしをしたので、今日は一日中ねむかった。	(例)宣伝に力を入れたことによって、店が繁盛した。	(例)今年は天候不順だったため、野菜の値段が上がった。

ポイント (1) 各文の原因と結果を捉えて、正しい関係になっているか見極める。
ポイント (2) 原因となる文を初めに書き、そのあとに指定の言葉をつけてつなげる。②は「入れたによって」では文がつながらないので、注意する。

2 次の問いに答えなさい。

(1) 次の——線の漢字をひらがなに直しなさい。
① 発酵食品を積極的にとろう。
② 大きな虹が東の空にかかる。
③ 樹齢二千年以上の杉の写真。
④ 野菜の苗がすくすく育つ。
⑤ 殺菌効果のあるウエットティッシュ。

(2) よくでる 次の□にあてはまる漢字を、［　　］から選んで答えなさい。
① 利益の一部を消費者に□元する。［還　観　環］
② 河原の土手に赤い□岸花が咲く。［彼　披　疲］
③ 健康のため、毎朝乾布□擦をする。［魔　摩　磨］
④ □審員制度を設ける。［陪　媒　梅］
⑤ 文書にイラストを□入する。［掃　操　挿］

2 各5点

(1)①	(1)②	(1)③	(1)④	(1)⑤	(2)①	(2)②	(2)③	(2)④	(2)⑤
はっこう	にじ	じゅれい	なえ	さっきん	還	彼	摩	陪	挿

19 節度を立てて 大阿蘇

教科書 P.150〜151

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

大阿蘇　三好達治

①雨の中に馬がたっている
一頭二頭子馬をまじえた馬の群れが　雨の中にたっている
雨は　蕭々と降っている
③馬は草をたべている
尻尾も背中も　鬣も　ぐっしょりと濡れそぼって
④彼らは草をたべている
草をたべている
あるものはまた草もたべずに　きょとんとしてうなじを垂れてたっている
雨は降っている　蕭々と降っている
山は⑤煙をあげている
中岳の頂から　うすら黄いろい　重っ苦しい噴煙が濛々とあがっている
空いちめんの雨雲と
やがてそれはけじめもなしにつづいている
馬は草をたべている
草千里浜のとある丘の
雨に洗われた青草を　彼らはいっしんにたべている
たべている
彼らはそこにみんな静かにたっている
ぐっしょりと雨に濡れて　いつまでもひとつところに
彼らは静かに集まっている
もしも百年が　この一瞬の間にたったとしても　何の不思議もないだろう
雨が降っている　雨が降っている
雨は蕭々と降っている

（教科書P.150〜151／三好達治「大阿蘇」）

(1) 次の——線の漢字をひらがなに直しなさい。
① 黒い噴煙を上げる。　② 丘の上の赤い屋根の家。

(2) ——線①「雨」が降っている様子を表した表現を、詩の中から三字で書き抜きなさい。

(3) ——線②「馬がたっている」とあるが、馬はどのようにたっているのか。詩の後半部分から三字で書き抜きなさい。

(4) ——線③「馬は草をたべている」とあるが、馬がたべている様子を表した表現を、詩の後半部分から五字で書き抜きなさい。

(5) ——線④「彼ら」という表現から、作者の馬たちへのどのような思いが感じられるか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 嫌悪　イ 親しみ　ウ あわれみ　エ 敬意

(6) ——線⑤「煙」を表している言葉を、詩の中から書き抜きなさい。

(7) この詩には、他とは異なった調子で作者の思いがうたわれている一行がある。それを抜き出し、初めの六字を答えなさい。

(8) この詩でくり返されている「〜ている」という表現は、どのようなことを表していると考えられるか。簡単に書きなさい。

1 (1)各5点、(6)(8)20点、他各10点

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
①ふんえん ②おか	蕭々と	静かに	いっしんに	イ	うすら黄いろい 重っ苦しい噴煙	もしも百年が	例同じ状態がずっと変わらず続いていること。

(2)「雨は降っている」の言葉に随所についてくる表現に注目する。
(3)(4) 詩の前半では「たっている」「たべている」とだけうたっているが、後半部分で同じ言葉に表現が加わっている。馬たちを「彼ら」と人間に見立てていることから、親近感を感じていることがわかる。
(5) 各文の終わり方に注目する。
(7)

20 いにしえの心にふれる いろは歌／古典の世界

教科書 P.154〜155・156〜157

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

①色はにほへど　散りぬるを
わかよたれそ　つねならむ
②うゐのおくやま　けふこえて
あさきゆめみし　ゑひもせす

③色はにほへど　散りぬるを
我が世たれぞ　常ならむ
④有為の奥山　今日越えて
浅き夢見じ　酔ひもせず

色は美しく照り映えていても
(花は)散ってしまうものである
私たち　この世の誰が
A
いろいろなことがある(人生の)深い山を
今日も越えて(いくのだが)
浅い夢など　B
心をまどわされも　C

（教科書P.154〜155／「いろは歌」）

(1) ——線ⓐ〜ⓔを現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで答えなさい。

(2) 「いろは歌」について説明した次の文の（　）にあてはまる言葉をあとから選び、記号で答えなさい。
「いろは歌」は（①）の仮名を（②）回ずつ使って作られ、作られた当時流行した（③）音・（④）音を（⑤）回くり返す（⑥）という歌謡形式になっている。（⑦）を学ぶ手本や物の（⑧）を示すものとして使われた。

ア 一　イ 二　ウ 三　エ 四　オ 五
カ 六　キ 七　ク 三十一　ケ 四十七　コ 今様
サ 神楽歌　シ 漢字　ス 仮名　セ 順序

(3) ——線①「色」は、何の「色」のことか。漢字一字で答えなさい。

(4) ——線②「常ならむ」の現代語訳として A に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 日常を過ごせるのだ
イ 永久に変わらないことがあろうか
ウ いつもと変わらないのだ

(5) ——線③「有為」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 役に立つこと　イ 変わらずにあること
ウ 常に一定ではないこと　エ わざとすること

(6) ——線④「見じ」の現代語訳として B に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 見ることはしない
イ 見てはならない
ウ 見ることもしなくてはならない

(7) ——線⑤「せず」の現代語訳として C に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。
ア しなさい　イ しない　ウ してはならない

1 (1)(2)各4点、(3)8点、他各10点

(1) ⓐ	ⓒ	ⓔ	(2) ①	③	⑤	⑦	⑧	⑥	④	②	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
におえ	うい	えい	ケ	キ	エ	ス	セ	コ	オ	ア	花	イ	ウ	ア	イ
ⓑならん	ⓓきょう														

(2)「いろは歌」は仮名文字一字を一回ずつ使い、意味のある文章になっている。
(3) あとの「散る」は、咲いた花が「散る」ことなので、「花」のことである。
(4)「む」は反語の意味を表し、「常＝永久」に変わらないだろうか、いや変わるだろう→永久に変わらないことがあろうか、という意味になる。
(5)「有為」は、この世で生じたり消えたりするすべてのこと。

21

いにしえの心にふれる

蓬莱の玉の枝――「竹取物語」から①

教科書 P.158～169　光村 国語中1

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

Ⅰ　今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきのみやつことなむいひける。

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。

Ⅱ　今ではもう昔のことだが、竹取の翁とよばれる人がいた。野や山に分け入って竹を取っては、いろいろな物を作るのに使っていた。名前を、さぬきのみやつこといった。

（ある日のこと、）その竹林の中に、根元の光る竹が一本あった。[A]、近寄って見ると、筒の中が光っている。それを見ると、（背丈）三寸ほどの人が、[B]かわいらしい様子で座っていた。

Ⅲ　子供を授かったと喜んだ翁は、その子を籠の中に入れて大切に育てた。子供はすくすくと成長して、わずか三か月ばかりで一人前のムスメになった。その姿は輝くばかりに美しく、辺りに光が満ちるようであったから、ムスメを「なよ竹のかぐや姫」と名づけた。

美しいかぐや姫のうわさが広まると、多くの男たちが、ぜひ結婚したいと集まってきた。かぐや姫は、なかでも熱心な五人の貴公子の求婚を断り切れず、望みの品を持参した人と結婚すると言って、一人ずつに難題を出した。

（教科書P.158～159／「蓬莱の玉の枝――『竹取物語』から」）

(1) ――線ⓐ・ⓑの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) よくでる ――線①・②・⑥・⑦を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで答えなさい。

(3) よくでる ――線③「あやしがりて」の現代語訳として[A]に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　不気味に思って　イ　すばらしいと思って
ウ　不思議に思って　エ　気に入らないので

(4) ――線④「見る」の主語を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　三寸ばかりなる人　イ　もと光る竹
ウ　竹取の翁

(5) ――線⑤「いと」の現代語訳として[B]に入る言葉を答えなさい。

(6) ――線⑧「子供」について、次の問いに答えなさい。

① 「子供」の小ささを表現している言葉を、Ⅰの中から七字で書き抜きなさい。

② 「子供」が不思議な存在であることを表す一文をⅢの中から抜き出し、初めの五字を答えなさい。

(7) よくでる ――線⑨「一人ずつに難題を出した」とあるがなぜか。その理由を文章中の言葉を使って説明しなさい。

1 (1)各6点、(2)各7点、他各10点

(1)	ⓐ	娘							
	ⓑ	けっこん							
(2)	①	いう							
	②	よろず							
	⑥	うつくしゅうて							
	⑦	いたり							
(3)		ウ							
(4)		ウ							
(5)		(例)まことに							
(6)	①	三	寸	ば	か	り	な	る	
	②	子	供	は	す	く			
(7)		(例)本当は貴公子たちの求婚を断りたかったから。							

(3) 「あやし」は、現代とは違った意味で用いられるので注意。「あやしがりて、寄りて見る」はすべて、竹を取りに行った「竹取の翁」の動作である。

(5) 「いと」には、「たいへん」「非常に」「まことに」などの意味がある。

(6) ①「三寸」は約9センチメートルで、ごく小さいことがわかる。②三寸ほどだった子供が、わずか三か月で一人前の娘に成長したことは、かぐや姫が普通の子供ではないことを表している。

(7) 「求婚を断り切れず」という表現に注目する。求婚に応じる気がなかったので、わざと難題を出したのである。

22

いにしえの心にふれる

蓬莱の玉の枝――「竹取物語」から②

教科書 P.158～169　光村 国語中1

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

Ⅰ　いよいよ中秋の名月の夜、帝は、二千人の兵士を遣わして翁の家を守るようお命じになった。しかし、月の都の人々に対しては、兵士たちも全く無力であった。かぐや姫は、翁には着ていた衣を、帝には天人の持参した不死の薬を、それぞれ手紙を添えて残し、人々の悲しみを後に天に昇っていってしまった。

帝は、かぐや姫から不死の薬を贈られていたが、かぐや姫のいないこの世にいつまでもとどまる気がしない。そこで、

「どの山が天に近いか。」

とお尋ねになると、ある人が、駿河の国にある山が、都からも近く天にも近いとお返事申しあげたので、その山に使者をお遣わしになった。

Ⅱ　御文、不死の薬の壺並べて、火をつけて燃やすべきよし仰せたまふ。

そのよしうけたまはりて、士どもあまた具して山へ登りけるよりなむ、その山を「ふじの山」とは名づけける。

その煙、いまだ雲の中へ立ち上るとぞ、言ひ伝へたる。

Ⅲ　（帝は）お手紙と、不死の薬の壺を並べて、火をつけて燃やすようにと、ご命令になった。

その旨をウケタマワって、（使者が）兵士たちをたくさん引き連れて山に登ったということから、その山を（[　　]に富む山」、つまり）「ふじの山」と名づけたのである。

その煙は、いまだに雲の中へ立ち上っていると、言い伝えられている。

（教科書P.163～164／「蓬莱の玉の枝――『竹取物語』から」）

(1) ――線ⓐ・ⓑの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ――線①「二千人の兵士」は、月の都の人々の前ではどのようであったか。Ⅰの中から四字で書き抜きなさい。

(3) ――線②「その山」とはどんな山か。「～山。」に続く形でⅠの中から四字で書き抜きなさい。

(4) よくでる ――線③「御文、不死の薬の……仰せたまふ」とあるが、帝は、なぜ不死の薬を燃やすように命令したのか。Ⅰの中の言葉を使って説明しなさい。

(5) ――線④「あまた具して」の現代語訳を、Ⅲの中から書き抜きなさい。

(6) ――線⑤・⑦を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで答えなさい。

(7) [　　]に入る言葉を、Ⅱの中から漢字一字で書き抜きなさい。

(8) ――線⑥「その煙」とは何によって生じた煙か。Ⅲの中の言葉を使って説明しなさい。

(9) よくでる 『竹取物語』について説明した次の文の（　）にあてはまる言葉をあとから選び、記号で答えなさい。

『竹取物語』は、民間に語り継がれていた伝説をもとに（①）時代の初め頃作られた、日本では最も（②）物語である。

ア　長い　イ　平安　ウ　奈良　エ　古い　オ　鎌倉

1 (1)(9)各5点、他各10点

(1)	ⓐ	おく							
	ⓑ	承							
(2)		全	く	無	力				
(3)		天	に	近	い	山。			
(4)		(例)かぐや姫のいないこの世にいつまでもとどまる気がしなかったから。							
(5)		たくさん引き連れて							
(6)	⑤	のぼりけるよりなん							
	⑦	いいつたえたる							
(7)		士							
(8)		(例)お手紙と、不死の薬を燃やして出た煙。							
(9)	①	イ							
	②	エ							

(3) 「どの山が天に近いか。」と尋ねて探させた山であることをおさえる。

(4) 帝は、かぐや姫から不死の薬を贈られて、どのような気持ちになったのかを捉える。

(5) 「あまた」は「たくさん」、「具す」は「そろう」「つき従う」「連れて行く」という意味。

(7) 「富む」は「たくさん持つ」という意味。たくさん引き連れられていたのは「士」である。

(8) 帝の命令により「お手紙と、不死の薬の壺を並べて、火をつけて燃や」して出た煙である。

23 いにしえの心にふれる 今に生きる言葉

教科書 P.170〜172　光村 国語中1

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「［　　］」という言葉は、今から二千年以上も前に「［A］」という書物に書かれた次のような故事が基になっている。

［　　］

Ⅰ　楚人に、④盾と矛とを鬻ぐ者有り。之を誉めて曰はく、①「吾が盾の②堅きこと、能く③陥すもの莫きなり。」と。又、其の矛を誉めて曰はく、「吾が矛の④利なること、物に於いて陥ざる無きなり。」と。或るひと曰はく、［B］の矛を以て、［B］の盾を陥さば何如。」と。⑤其の人、⑥応ふること能はざるなり。

Ⅱ　楚の国の人で、盾と矛を売る者がいた。

（その人が）盾をほめて、「私の盾の堅いことといったら、②（これを）つき通せるものはない。」と言った。

また、矛をほめて、「私の矛のするどいことといったら、どんなものでもつき通せないものはない。」と言った。

（そこで、）ある人が、「あなたの矛で、あなたの盾をつき通すとどうなるのかね。」と尋ねた。

その人は［C］。

（教科書P.170〜171／「今に生きる言葉」）

(1) ⓐ・ⓑの漢字をひらがなに直しなさい。

(2) ①「日はく」、③「陥す」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで答えなさい。

(3) ［A］に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 論語　イ 古事記　ウ 韓非子　エ 三国志

(4) ②「これ」が指すものを、Ⅱの中から一字で書き抜きなさい。

(5) ④「利なる」の意味を、Ⅱの中から書き抜きなさい。

(6) ［B］に入る、「あなた」という意味になる言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 貴　イ 子　ウ 方　エ 師

(7) ⑤「其の人」にあたる人物を、Ⅱの中から七字で書き抜きなさい。

(8) ⑥「応ふること能はざるなり」について、次の問いに答えなさい。

① 現代語訳として［C］に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 答えようとはしなかったのである
イ なんと答えたかはわからないのである
ウ 答えることができなかったのである

② 「応ふること能はざる」の状態になった理由を説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を書きなさい。

自分の盾をほめる言葉と、矛をほめる言葉は（　　）。

(9) ［　　］に入る、この話が基となってできた故事成語を答えなさい。

1 (1)(2)(3)(6)各5点、(8)②(9)各15点、他各10点

(1)	ⓐ	たて						
	ⓑ	かた						
(2)	①	いわく						
	③	とおす						
(3)		ウ						
(4)		盾						
(5)		するどい						
(6)		イ						
(7)		盾と矛を売る者						
(8)	①	ウ						
	②	(例)つじつまが合わないことに気づいたから						
(9)		矛盾						

(4) 「これ」に続けて「盾」の堅さを説明している。

(5) 「利」はするどいという意味。

(7) 「或るひと」に尋ねられた人、すなわち「盾と矛とを鬻ぐ者」のことである。

(8)① 「能はざる」は「〜することができない」という意味である。

② つき通せるものがないほど堅い盾と、つき通せないものがないほどするどい矛が同時に存在するということはありえない。

(9) この物語から、前後のつじつまが合わないこと、くい違うことを意味する「矛盾」という言葉が生まれた。

24 価値を見いだす 「不便」の価値を見つめ直す①

教科書 P.176〜185　光村 国語中1

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私の専門である機械の設計や工業デザインの分野でも、長い間、①便利を追求することが大きな指針であり続けてきた。手間を省き、便利を追求することこそ、人の生活を豊かにすることだと考えられてきたのだ。使う人の手間がかからないよう、また使う人が迷ったり考えたりしなくてもよいようにと、使い方が複雑なものは単純化され、自動化や効率化、高機能化が進められた。以前より［A］のかかるものをわざわざ開発することなど、想像もできない。

私も、元は設計の自動化について研究していた。何か③ほしいものがあれば、自動的に設計してくれるコンピュータを作れたらどんなにかすばらしいだろうと考えていたのだ。［B］、あるとき、次のような疑問が生じた。全てを自動化できれば確かに楽にはなるが、その分、自分で考えることによって得られる達成感や喜び、技術の向上も望めないことになる。それは、本当に人の生活を豊かにするデザインなのだろうか、と。確かに、便利になることで楽になるという側面はある。そして、それが必要な場面もあるだろう。しかし、②一様に便利さばかりを追求し続けることで、私たちの生活や社会は本当に豊かになっていくだろうか。今、便利の追求以外の新たな発想が求められているのではないか。

このような考えから私が着目したのが、これまで見過ごされてきた「不便」の価値である。私は、④不便だからこそ得られるよさを「不便益」とよび、その発想を新しいデザインに生かせないか、日々研究している。

そもそも、「不便」とはどういうことだろう。ひと口に「不便」といっても、人によってその言葉の⑤捉え方はさまざまだ。それではしっかりとした分析や議論ができないため、ここでは、何かをするときにかかる労力が多いことを「不便」とよぶこととしたい。つまり、手間がかかったり、頭を使って考えなければならなかったりすることを「不便」、手間もかからず、頭も使わなくてよいことを「便利」とする。

（教科書P.176〜178／川上浩司「『不便』の価値を見つめ直す」）

(1) ⓐ・ⓑの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ①「便利を追求すること」は、長い間どういうことだと考えられてきたか。文章中から十二字で書き抜きなさい。

(3) ［A］に入る言葉を、同じ段落から二字で書き抜きなさい。

(4) ［B］に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア だから　イ あるいは　ウ まず　エ ところが

(5) ②「一様に……求められているのではないか」と考えた筆者は、何に着目したか。文章中から七字で書き抜きなさい。（記号を含む）

(6) ③「不便だからこそ得られるよさ」とあるが、不便から何が得られると筆者は述べているか。文章中から三つ、五字以内で書き抜きなさい。

(7) 筆者はこの文章で、「便利」と「不便」をどのようなことと定義づけているか。それぞれ文章中から二十字以内で抜き出し、それぞれ初めと終わりの三字を答えなさい。

1 (1)各5点、他各10点（(6)順不同、(7)各完答）

(1)	ⓐ	欲										
	ⓑ	とら										
(2)		人の生活を豊かにすること										
(3)		手間										
(4)		エ										
(5)		「不便」の価値										
(6)		達成感・喜び・技術の向上										
(7)	便利	手間も〜いこと										
	不便	何かを〜いこと										

(2) 直後の一文の「便利を追求することこそ、……」に注目する。

(3) これまで「手間がかからないよう」に開発を進めてきたことから考える。

(4) それまで信じてやってきたことに対して疑問が生じた、という文脈を捉える。

(5) 直後の一文の言頭「このような考え」とは、――線②の内容を指している。

(6) ここでいう「不便」とは「手間がかかる」「自分で考える」こと。手間をかけて得られること、あるいは自分で考えて得られることが書かれている部分を探す。

(7) 最後の段落から、指定字数に注意して抜き出す。

25

教科書 P.176〜185

価値を見いだす

「不便」の価値を見つめ直す②

学習した日　月　日

光村 国語中1

時間25分　/100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

こうして集めた事例を整理すると、「不便益」とは何かが浮かび上がってくる。まだ整理の途中の段階ではあるが、主には次のようなことが挙げられるだろう。

まず、物事を達成するのにかかる時間や道のりが多くなる分、発見や出会いの機会が増える。次に、体力や知力、技術力の維持や向上をウナガす。自分の体や頭を使うことが、自然と体力・知力・技術力の低下を防ぎ、それらを向上させるからだ。また、「不便」であることは、人間の意欲を向上させる効果もある。自分で考えたり工夫したりする余地があるからこそ、取り組むときのモチベーションが高まり、成しトげたときの達成感が大きくなるのだ。なお、一つの事例に複数の「不便益」が含まれることも少なくない。例えば、タクシーよりも徒歩のほうが発見や出会いの機会が増えるとともに、運動能力の低下を防ぐことにもなる。

これらの「不便益」は、「不便」だからこそ得られるものだ。「便利はよいこと」で「不便は悪いこと」という固定観念にとらわれ、ただ無批判に「便利」なほうばかりを選んでいては、「不便」の価値を見落としてしまう。さらに、「便利はよいこと」という考えの下、社会全体が「便利」だけを追求していけば、私たち一人一人は自分でどちらかを選ぶことすらできないまま、知らぬ間に、本来得られていた楽しさや喜びが失われたり、自分の能力を発揮する機会が奪われたりすることになるだろう。

誤解してほしくないのは、私は便利であることを否定し、昔の不便な生活に戻ろうと言っているわけでも、不便なことは全てすばらしいと考えているわけでもないということだ。「不便」だからこそ得られるよさがあることを認識し、それを生かして新しいデザインを創り出そうというのが「不便益」の考え方なのである。

（教科書P.181〜183／川上浩司「「不便」の価値を見つめ直す」）

(1) ――線ⓐ〜ⓓの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ――線①「一つの事例に複数の『不便益』が含まれる」ことの例として、筆者は何を挙げているか。文章中から二字で書き抜きなさい。

(3) ――線②「これらの……得られるもの」についてまとめた次の表の（　）にあてはまる言葉を、第二段落から指定の字数で書き抜きなさい。

	不便なこと	得られるもの
物事の達成までに	（①二字）や道のりが多くかかる	発見や（②三字）の機会
自分の	（③三字）を使う	体力、知力、（④三字）の維持・向上
自分で考えたり工夫したりする		人間の（⑤二字）

(4) よくでる ――線③「楽しさや喜びが……奪われたりする」とあるが、そうならないためにはどのようにすべきだと筆者は述べているか。文章中の言葉を使って四十字以内で説明しなさい。（記号や句読点を含む）

(5) よくでる 筆者が述べる「不便益」の考え方とはどのようなものか。「〜という考え方。」に続く形で文章中から抜き出し、初めと終わりの五字を書き抜きなさい。（句読点を含む）

1 (1)各5点、他各10点（(5)完答）

(1)		(2)	(3)				(4)								(5)	
ⓐ	とちゅう	徒歩	①	時間	⑤	意欲	(例)「便利はよいこと」で「不便は悪いこと」と								終わり	初め
ⓑ	促		②	出会い	④	技術力								。	創り出そう	「不便」だ
ⓒ	遂		③	体や頭												
ⓓ	もと															

という考え方。

☆(2) 「例えば」のあとで説明されている例は何かを捉える。

☆(3) 筆者がどのようなことを「不便」としているかに注意しながら、前段落から読み取る。

☆(4) 筆者は第三段落で、「不便」を悪いものとして「便利」ばかり追求した場合に起こりうることを挙げて、私たちに忠告している。

☆(5) 最後の文で、「不便益」の考え方について述べている。

26

教科書 P.188・189・242〜246

価値を見いだす

漢字に親しもう4／文法への扉2 言葉の関係を考えよう

学習した日　月　日

光村 国語中1

時間25分　/100点

1 次の問いに答えなさい。

(1) 次の――線の漢字をひらがなに直しなさい。

① 斬新なデザインのドレスを身にまとった女優。
② この作品はなんとしても完璧に仕上げたい。
③ 何事も努力することが肝要だ。
④ 現役を引退した選手にインタビューする。
⑤ 合格祈願に神社へ行く。

(2) 次の言葉とつながる言葉を下から選び、あとの［　］の中の漢字を使って答えなさい。

① 暑いとのどが（　　）。
② やぎの乳を（　　）。
③ 運動をしないと体力が（　　）。
④ 停電の影響で仕事が（　　）。
⑤ お正月は家族と神社に（　　）。

滞　沸　渇　衰　詣　搾

［おとろえる　かわく　もうでる　しぼる　とどこおる］

1 各5点

(1)		(2)	
①	ざんしん	①	渇く
②	かんぺき	②	搾る
③	かんよう	③	衰える
④	げんえき	④	滞る
⑤	きがん	⑤	詣でる

2 次の問いに答えなさい。

(1) よくでる 次の文の――線部と――線部の関係をあとから選び、記号で答えなさい。

① 走れば、まだ間に合う。
② ハトが庭の木に巣を作った。
③ もうすぐ寒い季節がやってくる。
④ 石の上にも三年、これが私の座右の銘だ。
⑤ 兄は、水泳とサッカーが得意だ。
⑥ 草むらから虫の鳴き声が聞こえる。

ア 主・述の関係　イ 修飾・被修飾の関係　ウ 接続の関係
エ 独立の関係　オ 並立の関係　カ 補助の関係

(2) よくでる 次の文を、［　］の指示に従って書き換えなさい。

① 父は兄と妹を迎えに行った。
［妹だけを迎えに行ったことを伝える文］
② 母はうれしそうにはしゃぐ子どもを見つめた。
［母がうれしそうなことを伝える文］

2 (1)各5点、(2)各10点

(1)		(2)	
①	ウ	①	(例)父と兄は、妹を迎えに行った。
②	ア	②	(例)はしゃぐ子どもを、母はうれしそうに見つめた。
③	カ		
④	エ		
⑤	オ		
⑥	イ		

☆(2) 「［　］」の指示を満たしていれば、語順が異なっていてもよい。

27

教科書 P.192～193

読書に親しむ

考える人になろう　たのしい制約

学習した日　　月　　日

光村 国語中1

時間25分　／100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

がぜん、テンションの上がった教室は次の表現の図②に移りました。これも、見たところ、かなりユニークです。縦と横の直線だけで、数字とイコールが描かれています。だけど、なぜ二が三なのでしょうか、［　　］それは、五とも六ともそして九ともイコールなのです。また、教室全体がしんとなりました。「わかった！」大声を上げたのは、なんと僕でした。そして自慢げに「二も三も五も六も九も、構成している直線の本数が同じなんだ！」と、言ってしまってから、あまりの大人げのなさに、しまったと思うくらい夢中になっていました。（中略）

2=3=5=6=9

図②

他人から条件を与えられるのではなく、自分で好きな条件を付けられるのだから、さらにいい表現が生まれるだろうと思ったが、とんでもなかった。制限時間の十分を過ぎてもみんな顔を上げない。悩んでいるさまを見てさらに五分延ばしたが、それでも結果はぼろぼろであった。

あんな制約のあるトクシュな課題には喜々として取り組み、すばらしい答えを出した学生が、自分の裁量で自由に制約を変えられるとなったとたん、全くどうしていいのかわからなくなってしまったのです。

僕たちは何であれ、さまざまな制約の下で活動しています。そして制約が全て悪いほうに働くのではなく、「ちょうどいい制約」というものがあり、その制約があるからこそ、人間のもっている知性という翼を自由にはばたかせる喜びもある。研究会が終わり、黒板に残された二つの課題の回答をぼんやり見ながら、そんなことを考えていました。

（教科書P.192～193／佐藤雅彦「たのしい制約」）

(1) ═線ⓐ～ⓒの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ［　　］に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア しかし　イ しかも　ウ すると　エ だから

(3) ═線①「あまりの大人げのなさ」とは、どのようなことを指しているか。それを説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、これより前の文章中の言葉を使って書きなさい。

筆者自身が学生のような気分になって（　　）こと。

(4) ═線②「みんな顔を上げない」とは、学生のどのような様子を表しているか。それを説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から指定の字数で書き抜きなさい。

（①四字）が生まれなくて（②五字）様子。

(5) よくでる ═線③「結果はぼろぼろであった」のはなぜか。「～から。」に続く形で文章中から四十七字で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

(6) よくでる 筆者がこの文章で述べたかったことを次のようにまとめた。（　）にあてはまる言葉を、文章中から指定の字数で書き抜きなさい。

人間は、「（①八字）」があるからこそ（②二字）を自由に発揮することができる。

1 (1)各5点、(2)(3)(5)15点(5)完答、他各10点

(1) ⓐ	じまん
(1) ⓑ	特殊
(1) ⓒ	つばさ
(2)	イ
(3)	(例)大声を上げてしまった
(4) ①	いい表現
(4) ②	悩んでいる
(5) 初め	自分の裁量
(5) 終わり	てしまった
(5)	から。
(6) ①	ちょうどいい
(6) ①	制約
(6) ②	知性

★(2) 空欄の前で提示した疑問点に対してあとでさらに疑問点を付け加えている。

★(3) 疑問が解けて夢中になっている筆者の様子を表した表現をおさえる。

★(4) 「顔を上げない」とは、机に向かったままだということ。

★(5) 学生が「すばらしい答えを出した」ときとは、何が異なっていたかに注目する。

★(6) 最後の段落で、筆者の言いたいことがまとめて述べられている。

28

教科書 P.198～213

自分を見つめる

少年の日の思い出①

学習した日　　月　　日

光村 国語中1

時間25分　／100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

胸をどきどきさせながら、僕は紙切れを取りのけたいという誘惑に負けて、留め針を抜いた。すると、四つの大きな不思議な斑点が、挿絵のよりはずっと美しく、ずっとすばらしく、僕を見つめた。それを見ると、この宝を手に入れたいという、逆らいがたい欲望を感じて、僕は、生まれて初めて盗みをオカした。僕は、ピンをそっと引っ張った。ちょうは、もう乾いていたので、形はくずれなかった。僕は、それをてのひらにのせて、エーミールの部屋から持ち出した。そのとき、さしずめ僕は、大きな満足感のほか何も感じていなかった。

ちょうを右手に隠して、僕は階段を下りた。そのときだ。下の方から誰か僕の方に上がってくるのが聞こえた。その瞬間に、僕の良心は目覚めた。僕は突然、自分は盗みをした、下劣なやつだということを悟った。同時に、見つかりはしないか、という恐ろしい不安に襲われて、僕は、本能的に、獲物を隠していた手を上着のポケットにつっ込んだ。ゆっくりと僕は歩き続けたが、大それた恥ずべきことをしたという、冷たい気持ちにフルえていた。上がってきた女中と、びくびくしながら擦れ違ってから、僕は胸をどきどきさせ、額にあせをかき、落ち着きを失い、自分自身におびえながら、家の入り口に立ち止まった。

すぐに僕は、このちょうを持っていることはできない、持っていてはならない、元に返して、できるなら、何事もなかったようにしておかなければならない、と悟った。そこで、人に出くわして見つかりはしないかということを極度に恐れながらも、急いで引き返し、階段を駆け上がり、一分の後には、またエーミールの部屋の中に立っていた。僕は、ポケットから手を出し、ちょうを机の上に置いた。それをよく見ないうちに、僕はもう、どんな不幸が起こったかということを知った。そして、泣かんばかりだった。クジャクヤママユはつぶれてしまったのだ。

（教科書P.205～206／ヘルマン・ヘッセ　高橋健二　訳「少年の日の思い出」）

(1) ═線ⓐ～ⓓの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) よくでる ═線①「四つの大きな……見つめた」という表現から、「僕」のどのような様子がわかるか。次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 斑点を恐ろしく思っている様子。　イ 斑点に失望している様子。

ウ 斑点を細かく観察している様子。　エ 斑点に魅了されている様子。

(3) ═線②「この宝」が指すものを、文章中から八字で書き抜きなさい。

(4) ═線③「僕の良心は目覚めた」を具体的に説明している部分を文章中から一文で抜き出し、初めの五字を答えなさい。（読点を含む）

(5) ═線④「自分自身におびえながら」とは、どのような自分におびえたのか。それを説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から指定の字数で書き抜きなさい。

（①二字）という大それた（②六字）をした自分におびえた。

(6) よくでる ═線⑤「不幸」とはどのようなことを指しているか。文章中の言葉を使って説明しなさい。

(7) よくでる この場面での「僕」の心情の変化として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 不安→満足→絶望　イ 満足→不安→絶望　ウ 絶望→不安→満足

1 (1)各5点、(6)20点、他各10点

(1) ⓐ	犯
(1) ⓑ	さと
(1) ⓒ	は
(1) ⓓ	震
(2)	エ
(3)	クジャクヤママユ
(4)	僕は突然、
(5) ①	盗み
(5) ②	恥ずべきこと
(6)	(例)クジャクヤママユがつぶれてしまったこと。
(7)	イ

★(2) 「挿絵のよりはずっと美しく、ずっとすばらしく、僕を見つめた」と、斑点が「僕」をとりこにした様子を、擬人法を使って表している。

★(3) 「僕」が見ている「ちょう」のことである。

★(4) 盗みは悪いことだということを思い出したのである。

★(5) 自分がやってしまったことに恐ろしさを感じている。何をやってしまったかを、前の部分から読み取る。

★(6) ちょうが好きな「僕」にとって「泣かんばかり」の不幸とは何かを読み取る。

★(7) ちょうを持ち出したとき、良心が目覚めたとき、ちょうを返したときの「僕」の心情を捉える。

29

教科書 P.198〜213・214

自分を見つめる

少年の日の思い出②／漢字に親しもう5

学習した日　月　日

光村 国語中1

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「そうか、そうか、つまり君はそんなやつなんだな。」と言った。

僕は、彼に、僕のおもちゃをみんなやる、と言った。それでも、彼は冷淡に構え、イゼン僕をただ軽蔑的に見つめていたので、僕は、自分のちょうの収集を全部やる、と言った。しかし、彼は、

「結構だよ。僕は、君の集めたやつはもう知っている。そのうえ、今日また、君がちょうをどんなに取り扱っているか、ということを見ることができたさ。」

と言った。

その瞬間、僕は、すんでのところであいつの喉笛に飛びかかるところだった。もうどうにもしようがなかった。僕は悪漢だということに決まってしまい、エーミールは、まるで世界のおきてを代表でもするかのように、冷然と、正義を盾に、あなどるように僕の前に立っていた。彼は罵りさえしなかった。ただ僕を眺めて、軽蔑していた。

そのとき、初めて僕は、一度起きたことは、もう償いのできないものだということを悟った。僕は立ち去った。母が根掘り葉掘りきこうとしないで、僕にキスだけして、構わずにおいてくれたことをうれしく思った。僕は、「とこにお入り。」と言われた。僕にとってはもう遅い時刻だった。だが、その前に、僕は、そっと食堂に行って、大きなとび色の厚紙の箱を取ってき、それを寝台の上にのせ、ヤミの中で開いた。そして、ちょうを一つ一つ取り出し、指で粉々に押しつぶしてしまった。

（教科書P.209〜210／ヘルマン・ヘッセ　高橋健二　訳「少年の日の思い出」）

(1) ——線ⓐ〜ⓓの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ——線①「その瞬間……飛びかかるところだった」とは、「僕」のどのような心情を表しているか。簡単に書きなさい。

(3) ——線②「彼は……軽蔑していた」について、次の問いに答えなさい。

Ⅰ エーミールは「僕」をどんなやつだと見ているか。次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から二字で書き抜きなさい。

盗みをするうえにちょうを大切に扱えない（　　）。

Ⅱ 重要 ——線②のようなエーミールの態度を見て「僕」はどのようなことを悟ったか。文章中から書き抜きなさい。

(4) 重要 ——線③「ちょうを……押しつぶしてしまった」ときの「僕」の気持ちとして適当なものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア エーミールをうらむ気持ち。　イ 自分を罰する気持ち。

ウ ちょうへの思いを断ち切る気持ち。　エ 母に感謝する気持ち。

2 次の文の——線①〜③の漢字をひらがなに直しなさい。また、［　　］A〜Cにあてはまる二字熟語をあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

昨日オープンした①喫茶店の看板メニューは、②豆腐を使った③抹茶ケーキだそうだ。店長が全身［A］をささげたこのケーキは、試行［B］の末の傑作とも言える。さらに彼は大胆［C］にも、このケーキを海外にも広めようとしているらしい。

ア エーミールをうらむ気持ち。　イ 自分を罰する気持ち。

ウ ちょうへの思いを断ち切る気持ち。　エ 母に感謝する気持ち。

1 (1)各5点、他各10点　(4)順不同

(1) ⓐ	ⓑ	ⓒ	ⓓ	(2)	(3) Ⅰ	(3) Ⅱ	(4)
依然	のどぶえ	つぐな	闇	例 激しい怒り。	悪漢	一度起きたことは、もう償いのできないものだということと	イ ウ

★(2) 前のエーミールの言葉を聞いて、「僕」はかっとなったことを捉える。

★(3) Ⅰ エーミールの「そんなやつ」「君がちょうをどんなに取り扱っているか」という言葉を、二字で表している部分を探す。

Ⅱ 直後の「そのとき」とは、——線②のエーミールの態度を「僕」が見たときのことである。

★(4) エーミールからは軽蔑されただけで罪を償うことができなかったため、自分が大切にしていたちょうをつぶすことで、自分で自分を罰しようとしたのである。さらに、一つずつつぶすことで、もう二度とちょう集めはしまいという決意も読み取れる。

2 各5点

①	②	③	A	B	C
きっさてん	とうふ	まっちゃ	ウ	オ	イ

30

教科書 P.215・216〜219・247〜250

自分を見つめる

文法への扉3 単語の性質を見つけよう／随筆二編

学習した日　月　日

光村 国語中1

時間25分　100点

1 次の問いに答えなさい。

(1) 次の文の単語を、A自立語とB付属語に分類して書き抜きなさい。

① 屋上から美しい風景が見えるそうだ。

② 今日の朝、駅で友達に会いました。

(2) 次の各組の単語の中から他の単語と品詞が違うものを選び、記号で答えなさい。

① ア 走る　イ 来る　ウ 早い　エ 起きる

② ア 美しい　イ きれいだ　ウ かわいい　エ 楽しい

③ ア しかし　イ たぶん　ウ だから　エ または

(3) 重要 次の——線①〜⑦の単語の種類をあとから選び、記号で答えなさい。

私は昨日、姉と自転車で①近くの公園へ行った。②そして、そこで遊んだあと、母が作ってくれた③大きなおにぎりを一つ④食べた。⑤とてもおいしかったので、⑥もっと食べたいと思った。

ア 名詞　イ 動詞　ウ 形容詞　エ 形容動詞　オ 接続詞

カ 副詞　キ 連体詞　ク 助動詞　ケ 助詞　コ 感動詞

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

四、五歳の頃、父と私だけで暮らす時期が二、三年あった。たった二人の日々である。仕事から帰った後の父、休日の父に、まとわりつき、家の中でも父の後をくっついて回った。（中略）

小学校の校長をしていた父は、学校間の会議などがあるらしく、時々、日帰りの出張などしていた。家の中でも、くっついて回る私である。出張の日の父の気配の違いを見逃さない。（中略）私は息がせわしくなって、必ず同じ質問をする。

「父ちゃん、どこ行くの？」

父も必ず同じ答えを返す。「えんぽう、えんぽう。」テンジョウを眺めながら、歌うように「エンポーエンポー」と繰り返す父の姿はまぶしく、非日常的であり、私は、連れていってもらえない「えんぽう」というところに、深く深く憧れた。そしてその、まぶしい晴れやかな「えんぽう」に、いつか必ず行きたいと思っていた。

（教科書P.217〜218／工藤直子「随筆二編『えんぽう』」）

(1) ——線ⓐ・ⓑの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ——線①「仕事から……くっついて回った」とあるが、「私」はなぜ父にいつもくっついていたのか。文章中の言葉を使って説明しなさい。

(3) ——線②「私は息がせわしくなって」とあるが、このときの「私」の心情として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 失望　イ 驚き　ウ 興奮　エ 納得

(4) 重要 ——線③「えんぽう」とは、幼い「私」にとってどのようなところだったか。それを説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から指定の字数で書き抜きなさい。

（　　）

1 (1)AB各順不同・完答5点、他各3点

(1) ① A	(1) ① B	(1) ② A	(1) ② B	(2) ①	(2) ②	(3) ①	(3) ②	(3) ③	(3) ④	(3) ⑤	(3) ⑥	(3) ⑦
屋上、美しい、風景、見える	から、が、そうだ	今日、朝、駅、友達、会い	の、で、に、まし、た	ウ	イ	イ	ア	キ	カ	ウ	ケ	ク

2 (1)各5点、他各10点

(1) ⓐ	(1) ⓑ	(2)	(3)	(4) ①	(4) ②
みのが	天井	例 父とたった二人の日々だったから。	ウ	憧れた	晴れやかな

★(2) 二人きりの生活であったため、甘えられるのは父だけだったのである。

★(3) 父が出張するということは、「私」にとって憧れの「えんぽう」に行くということである。

★(4) 最後の二文から読み取る。

31

教科書 P.224〜226・227〜228・229

自分を見つめる

言葉3 さまざまな表現技法／漢字3 漢字の成り立ち／漢字に親しもう6

学習した日　月　日

光村 国語中1

時間25分　/100点

1 次の問いに答えなさい。

(1) よくでる 次の各文で用いられている表現技法をあとから選び、記号で答えなさい。

① 帯に短し、たすきに長し。
② 月がやさしくほほえんでいる。
③ 天までとどけ。とどけ、とどけ。
④ 早く行こうよ、買い物に。
⑤ わたがしのような雲が流れていく。

ア 擬人法　イ 直喩　ウ 対句　エ 反復　オ 倒置

(2) 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

蜂の羽音が
チューリップの花に消える
微風の中にひっそりと
客を迎へた赤い部屋

（教科書P.226／三好達治「チューリップ」）

① この詩で用いられている表現技法を次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 対句　イ 体言止め　ウ 隠喩　エ 省略　オ 倒置

② ——線「客を迎へた赤い部屋」は、どのような情景を表しているか。次の文の（　）にあてはまる言葉を詩の中から書き抜きなさい。

（A）が（B）の中に入っていった情景。

1 各5点（(2)①順不同・完答）

(1) ①	ウ	(1) ③	エ	(1) ⑤	イ
(1) ②	ア	(1) ④	オ		
(2) ①	イ・ウ	(2) ② A	蜂	(2) ② B	チューリップの花

(1) ③「とどけ」という言葉が繰り返されている。④普通の語順は、「早く買い物に行こうよ。」などである。

(2) ①最後の一行に、隠喩と体言止めが使われている。②「蜂」を「客」に、「チューリップの花」を「赤い部屋」にたとえている。

2 次の問いに答えなさい。

(1) 次の文は、どの漢字の成り立ちについて説明したものか。あとから選び、記号で答えなさい。

① 物の形をかたどって、その物を表した文字。
② 抽象的な事柄を、記号やその組み合わせで表した文字。
③ 二つ以上の文字を組み合わせて、新しい意味を表した文字。
④ 二字を組み合わせて、一方で音、他方で意味を表した文字。

ア 指事文字　イ 形声文字　ウ 象形文字　エ 会意文字

(2) よくでる 次の漢字の成り立ちにあてはまる漢字を□から二つずつ選んで書きなさい。

① 象形文字　② 指事文字　③ 会意文字　④ 形声文字

末　河　板　馬　鳴　本　月　孫

2 各4点（(2)順不同・各完答）

(1) ①	ウ	(2) ①	馬
(1) ②	ア	(2) ②	末
(1) ③	エ	(2) ③	鳴
(1) ④	イ	(2) ④	河
			月
			本
			板

3 次の——線の漢字をひらがなに直しなさい。

(1) 勲章をいただく。
(2) 野菜を収穫する。
(3) 貨幣価値が変わる。
(4) 赤い手提げ袋を持つ。
(5) 寸暇を惜しんで働く。
(6) 琴線に触れる詩。
(7) 腰を据えて話し合おう。

3 各4点

(1)	くんしょう	(3)	かへい	(5)	お	(7)	す
(2)	しゅうかく	(4)	てさ	(6)	きんせん		

32

教科書 P.234〜236

自分を見つめる

さくらの　はなびら

学習した日　月　日

光村 国語中1

時間25分　/100点

1 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

さくらの　はなびら　　まど・みちお

えだを　はなれて
ひとひら

さくらの　はなびらが
じめんに　たどりついた
いま　おわったのだ
そして　はじまったのだ

ひとつの　ことが
さくらに　とって
いや　ちきゅうに　とって
うちゅうに　とって
あたりまえすぎる
ひとつの　ことが
かけがえのない
ひとつの　ことが

（教科書P.234〜235／まど・みちお「さくらの　はなびら」）

(1) この詩の形式を、漢字五字で答えなさい。

(2) よくでる 第三連と第四連で用いられている表現技法をあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 直喩　イ 倒置　ウ 体言止め　エ 反復　オ 対句

(3) ——線「さくらの……たどりついた」とは、どのような様子を表しているか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア さくらのはなびらがいっせいに散った様子。
イ さくらのはなびらが枝からまっすぐ下に落ちた様子。
ウ さくらのはなびらが宙をただよいながら舞い落ちた様子。

(4) この詩の最後に言葉を続けるとしたら、どのような表現が入るか。詩の中から一続きの二行で書き抜きなさい。

(5) よくでる さくらのはなびらが散ることを、作者はどのように受けとめているか。次の文の（　）にあてはまる言葉を詩の中から書き抜きなさい。

さくらのはなびらが散ることは、（①）にとってだけではなく、ちきゅうやうちゅうにとって（②）ことだけれど、（③）ことのひとつなのである。

(6) この詩から感じられるものとして適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 視点のひろがり。　イ やわらかなイメージ。
ウ 生命の不思議さ。　エ 全ての物事の尊さ。

1 (4)(6)15点、他各10点

(1)	口語自由詩	(2) 第三連	オ	(3)	ウ	(4)	いま　おわったのだ　そして　はじまったのだ
(2) 第四連	イ						
(5) ①	さくら	(5) ②	あたりまえすぎる	(5) ③	かけがえのない	(6)	ウ

(1) 相対する語句を並べ、リズムを整える表現が「対句」、語順を普通とは逆にして意味を強める表現が「倒置」であることをおさえる。

(3) 「たどりつく」とは、苦労してやっと目的地に行きつくという意味なので、そこから考える。

(4) 「ひとつの　ことが」「いま　おわったのだ／そして　はじまったのだ」とつながっていることを捉える。

(5) 作者はさくらのはなびらが散ったことに目を留めて、ひとつの物事のおわりと次の物事のはじまりを感じている。それはあたりまえのことだけれど、なにものにもかえられないことだと捉えている。

(6) アは、「さくら」→「ちきゅう」→「うちゅう」と視点を広げているので、適当。イは、全てひらがなで表記することで、読み手にやわらかなイメージを与えるので、適当。ウは、さくらのはなびらが散ることはあたりまえのことと捉えているので、不適。エは、作者はさくらのはなびらが散るという小さくあたりまえのことも「かけがえのないこと」としているので、適当。

33 学習を広げる 坊っちゃん

教科書 P.278〜287

学習した日　月　日

光村 国語中1

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

①いよいよ約束が決まって、もうたつという三日前に清を訪ねたら、北向きの三畳に風邪を引いて寝ていた。俺の来たのを見て起き直るが早いか、坊っちゃん、いつうちをお持ちなさいますときいた。卒業さえすれば、金が自然とポケットの中にわいてくると思っている。そんなにえらい人をつらまえて、まだ［　　］とよぶのは、いよいよかげている。俺は単簡に、当分うちは持たない。③田舎へ行くんだと言ったら、非常に失望した様子で、ごま塩のびんの乱れをしきりになでた。あまり気の毒だから、「行くことは行くが、じき帰る。来年の夏休みにはきっと帰る。」となぐさめてやった。それでも③ミョウな顔をしているから、「何を土産に買ってきてやろう、何が欲しい。」ときいてみたら、「越後のささあめが食べたい。」と言った。越後のささあめなんて聞いたこともない。だいいち方角が違う。「俺の行く田舎には、ささあめはなさそうだ。」と言って聞かしたら、「そんなら、どっちの見当です。」ときき返した。「西の方だよ。」と言うと、「箱根の先ですか手前ですか。」と問う。ずいぶん持て余した。

出立の日には朝から来て、いろいろ世話を焼いた。来る途中、小間物屋で買ってきた歯磨きとようじと手拭いをズックのかばんに入れてくれた。そんなものは要らないと言っても、なかなか承知しない。車を並べて停車場へ着いて、プラットフォームの上へ出たとき、車へ乗り込んだ俺の顔をじっと見て、「②もうお別れになるかもしれません。ずいぶんごきげんよう。」と小さな声で言った。目に③ナミダがいっぱいたまっている。俺は泣かなかった。しかし、もう少しで泣くところであった。汽車がよっぽど動きだしてから、もう大丈夫だろうと思って、窓から首を出して④振り向いたら、やっぱり立っていた。なんだかたいへん小さく見えた。

（教科書P.285〜286／夏目漱石「坊っちゃん」）

(1) ═線ⓐ〜ⓓの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ──線①「いよいよ……清を訪ねた」について、次の問いに答えなさい。

Ⅰ　清は「俺」から田舎に行くことを聞いてどんな様子だったか。文章中から九字で書き抜きなさい。

Ⅱ　Ⅰのような様子を見て、「俺」はどうしたか。次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から指定の字数で書き抜きなさい。

「すぐに（①二字）し、（②二字）を買ってきてやる」と言って（③五字）やった。

(3) ［　　］に入る言葉を文章中から書き抜きなさい。

(4) 内容理解 ──線②「もうお別れになるかもしれません。ずいぶんごきげんよう」と清が言ったのはなぜか。清の年齢をふまえて説明しなさい。

(5) 内容理解 「俺」が清との別れをつらく思っていることがわかる一文を二つ、文章中から抜き出し、それぞれ初めの五字を答えなさい。（完答を含む）

1 (1)各5点、他各10点(5)順不同

(1)		(2)				(3)	(4)	(5)	
ⓐ	いなか	Ⅰ	非常に失望した様子	Ⅱ ①	帰る	坊っちゃん	(例)自分はもう年をとっているので、次に会うまで生きていられるかわからないから。	・	しかし、もなんだかた
ⓑ	妙			②	土産				
ⓒ	涙			③	なぐさめて				
ⓓ	ふ								

(2) 「田舎へ行くんだ」のあとから清の様子や「俺」とのやりとりを捉える。

(3) 清が「俺」をどのようによんでいるかに注目する。

(4) 「ごま塩のびん」とは、黒髪に白髪がまじった側面の髪のこと。年老いていることを表す。

(5) 「プラットフォームの上」から最後までが、清との別れの場面である。清が「たいへん小さく見えた」のは、心の支えがなくなっていくような気がして、さびしい気持ちになっているからである。

34 学習を広げる 幻の魚は生きていた

教科書 P.288〜291

学習した日　月　日

光村 国語中1

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

かつて、田沢湖周辺に住む人々にとって、クニマスは出産祝いや、病気ⓐ═ミマい、誕生日祝いに贈られる［A］な魚だった。クニマス漁の権利は代々受け継がれ、①江戸時代から残る文書には、誰が、いつ、どれだけクニマスをとったかが細かく記録されている。人々はこの魚をとりすぎないように節度を守っていたのであろう。クニマスは地元の民話にも登場する魚で、田沢湖周辺の人々の生活や文化に根ざした大切な存在だったのだ。にもかかわらず、クニマスが絶滅したのには、次のような背景がある。

②田沢湖の南に広がる一帯は、大きな川が少なく、農業用水を確保することが難しかった。近くを流れる玉川は、水量はあるが強い酸性の水で、農業にも、また多くの生物の生活にも適さなかった。

［B］、その田沢湖一帯をめぐる事態が変わり始める。一九三四年、東北地方を大凶作がオソうと、食料の増産が人々にとって切実な課題となった。そこで、玉川の水を田沢湖に引き入れて酸性を弱め、それを農業用水として使うこと、また、電力の供給を増やすため、湖の水を水力発電に利用することが計画された。酸性の水はクニマスをはじめとする田沢湖の生物に③打撃をアタえてしまう。しかし、人々の生活のためにはやむをえず、一九四〇年、玉川の水は田沢湖に引き入れられたのである。

［C］④クニマスは、人の手による環境の改変によって、他の多くの生物と共に田沢湖から姿を消した。そして、地元の人々の生活に根ざしていたクニマスをめぐる文化も同時に消えていった。

（教科書P.288〜289／中坊徹次「幻の魚は生きていた」）

(1) ═線ⓐ〜ⓔの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ［A］に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　特殊　イ　平凡　ウ　特別　エ　珍味

(3) ──線①「人々は……守っていたのであろう」とあるが、どのようにして節度を守ったのか。文章中の言葉を使って説明しなさい。

(4) ──線②「田沢湖の南に広がる一帯」について説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から指定の字数で書き抜きなさい。

（①四字）の確保が難しく、近くを流れる玉川は、強い（②二字）の水で、農業にも生物の生活にも適さなかった。

(5) ［　　］B・Cに入る言葉を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア　ところで　イ　ところが　ウ　こうして　エ　例えば

(6) 内容理解 ──線③「田沢湖一帯をめぐる事態が変わり始める」とあるが、事態の変化について説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から指定の字数で書き抜きなさい。

大凶作におそわれ、（①五字）のために（②二字）の水を（③三字）に引き入れてから（④四字）として使うことにし、さらに電力の供給を増やすために湖の水を（⑤四字）に利用することになった。

(7) 内容理解 ──線④「クニマスは……姿を消した」とあるが、なぜか。文章中の言葉を使って説明しなさい。

1 (2)(3)(7)各10点、他各5点

(1)		(2)	(3)	(4)		(5)		(6)					(7)
ⓐ	見舞	ウ	(例)誰が、いつ、どれだけクニマスをとったかを細かく記録していた。	①	農業用水	B	イ	①	食料の増産	②	玉川	③	(例)玉川から引き入れられた酸性の水によって打撃を受けたから。
ⓑ	えど			②	酸性	C	ウ	③	田沢湖	④	農業用水	⑤	水力発電
ⓒ	襲												
ⓓ	だげき												
ⓔ	与												

(3) 「節度」は度を越さず適当なこと。記録をとることで管理し、また漁への抑止力としていたと考えられる。

(4)(6)(7) 第一段落末尾に「クニマスが絶滅……背景がある」とある。そこに続く第二・三段落の中から、クニマス絶滅の背景を読み解く。